

Hassojitz

総合商社 双日 未来を創造した先駆者たち



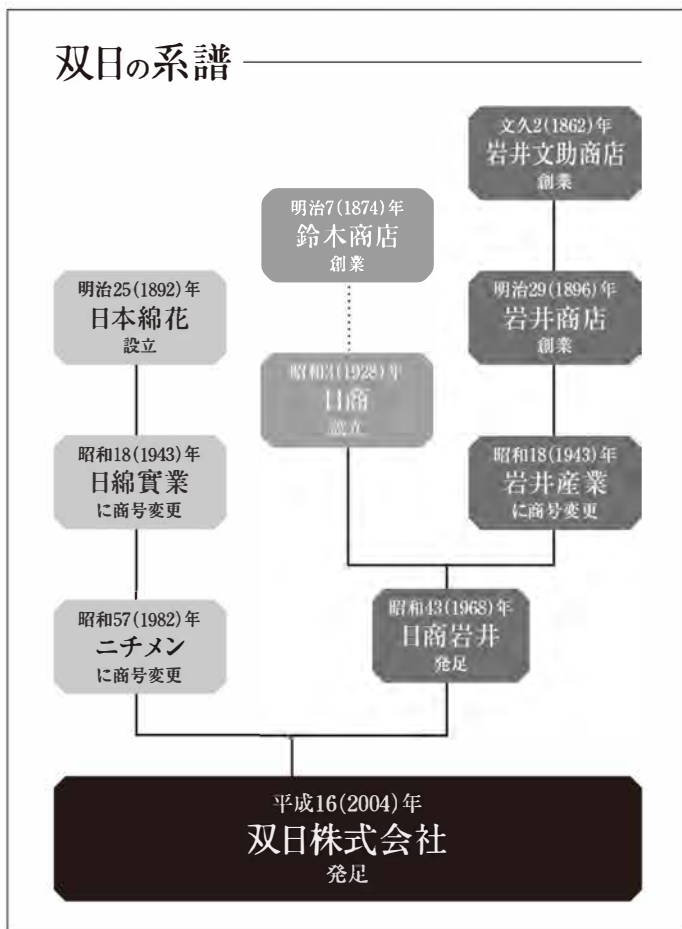
第6巻

新路



双日株式会社

双日の系譜



本作品は、可能な限り史実に基づいて作成していますが、構成上、マンガ特有の表現、描写を用いている部分があります。
また、登場人物の台詞は、基本的に各史料から引用していますが、一部推測により作成しています。

前回までのあらまし

大戦景気に沸く
大正六(一九一七)年
ついに鈴木商店は
貿易年商で日本一となる
しかし翌年
米騒動をきっかけに
本店焼き打ち事件という
悲劇に見舞われる

また
第二次世界大戦の
終結とともに

反動不況と猛烈な
デフレーションが
日本経済を襲う

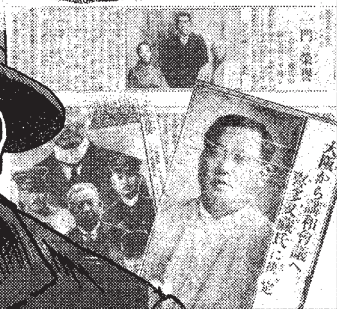
鈴木商店と同じく
業績を伸ばしていた
岩井商店・日本綿花も
苦境に立たされる

times.
OF THE WAR!
EVOLUTIONISTS
LEGS FOR HOLL
The State De
Maid
When the occasion is ripe
to set the example of the
to the

鈴木商店の金子直吉は
米国政府と直接交渉し
船鉄交換契約を成立させ
鈴木の名を更に高めた
後藤新平の要請により
帝国石油(後・昭和石油
現・出光興産)を買収
するなどその勢いは
衰えることはなかった



岩井商店の岩井勝次郎は
社員を戒めるため
訓示を発する
人・資金・商売との均衡や
狭く深くを主眼として
堅実経営を訴えるなど
鈴木商店の拡大路線とは
異なる内容であった
また
鉄鋼輸入商社の老舗の
強みを生かじ日本橋梁を
設立する



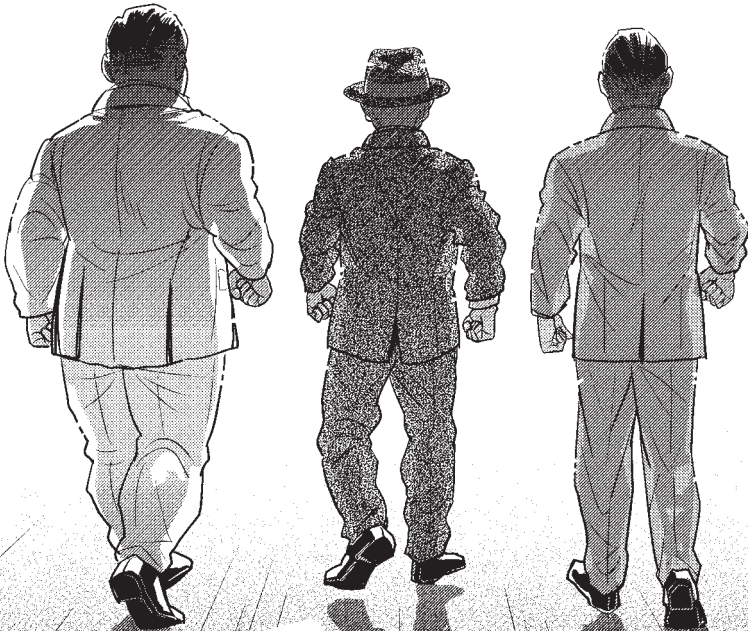
日本綿花の喜多又蔵は
大戦中に日本に膨大な
外貨をもたらした功績が
認められパリ講和会議の
民間随行人員に選ばれるなど
関西財界で名を馳せた
そして
人造絹糸の製造にも進出
旭化成を設立し
鈴木商店と対立する



明治から
双日の源流を
追ってきた本作品

開国後の
産業革命を牽引し
事業や人材を
創造し続けた
総合商社 双日の
先駆者たちの功績

そして現在まで
生き続ける
遺伝子とは何なのか
その本質を
探る物語はついに
最終巻を迎える



 **sojitz**

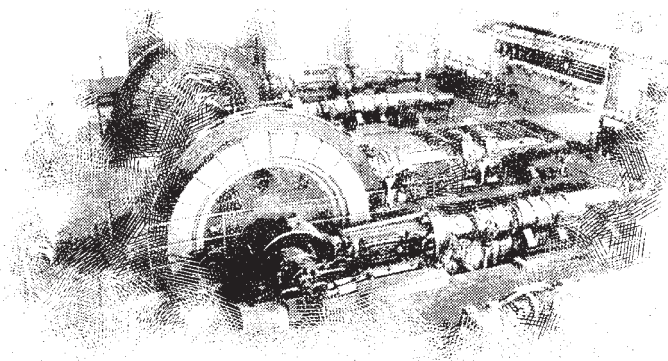
Hassojitz

発想 × **sojitz**

第1章

鈴木商店

夢の技術、合成アンモニアの製造



ドイツは
連合国に港を封鎖され
爆薬原料である硝石の
輸入ができなくなり
早期に敗北すると
見られていたが

鈴木商店ロンドン支店

空中の
窒素を原料にした
アンモニア製造技術を
開発し戦争は予想外に
長引いた……



平時は肥料
戦時には爆薬原料
……
夢のような技術だ！

鈴木商店本店

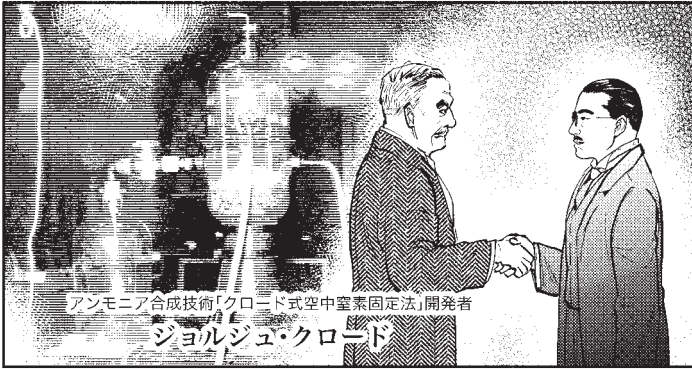
鈴木商店は
豊年製油
(現・J・オイルミルズ)
にて大豆を製油
大豆粕を有機肥料として
全国に販売している

ただ肥料輸入のうち
8割以上は窒素肥料で
化学肥料の国産化が
必要である

空中窒素固定法による
アンモニアの製造は
政府も財閥も研究して
いるがまだまだだ

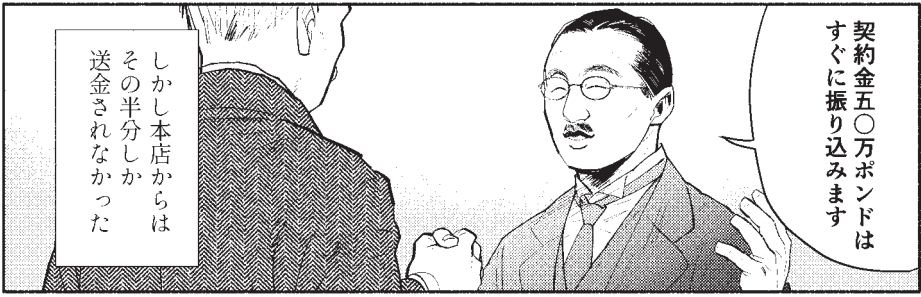
その夢の技術
誰よりも早く確保しよう
必要な金を送るぞ
高畑くん！





鈴木商店はフランスの
レール・リキッド社と
特許権の取得で合意した

アンモニア合成技術「クロード式空中窒素固定法」開発者
ジョルジュ・クロード



契約金五〇万ポンドは
すぐに振り込みます

しかし本店からは
その半分しか
送金されなかった



鈴木は経営形態をあらため
株式会社化したほうが良い
神戸高商(現・神戸大学)
出身の学卒派を中心に
経営改革をすべきだ



高畑は仕方なく
砂糖取引で得た資金から
残りを支出した

永井……
本店はどうなって
いるんだ……

帝人と対立し
日本綿花の
喜多又蔵とともに
旭絹織(現・旭化成)を
設立した野口遵

彼もまた
この夢の技術に
興味を持っていた



そのレターは
なんですか？



野口遵は
イタリアのカザレー社を訪問し
工場の幹部と談話をした

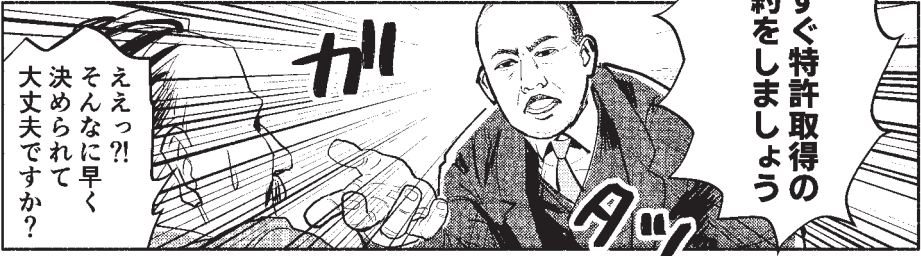


なにっ!?!
また鈴木商店か
彼らの動きは早すぎる
このままでは手遅れに
なる

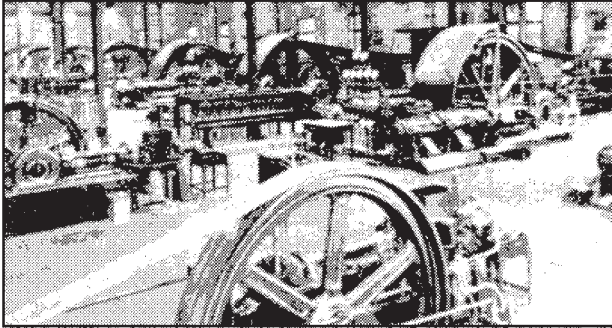


あっ
これですか
鈴木商店も当社の
空中罫素固定法に
興味があるようで

今すぐ特許取得の
契約をしましょう

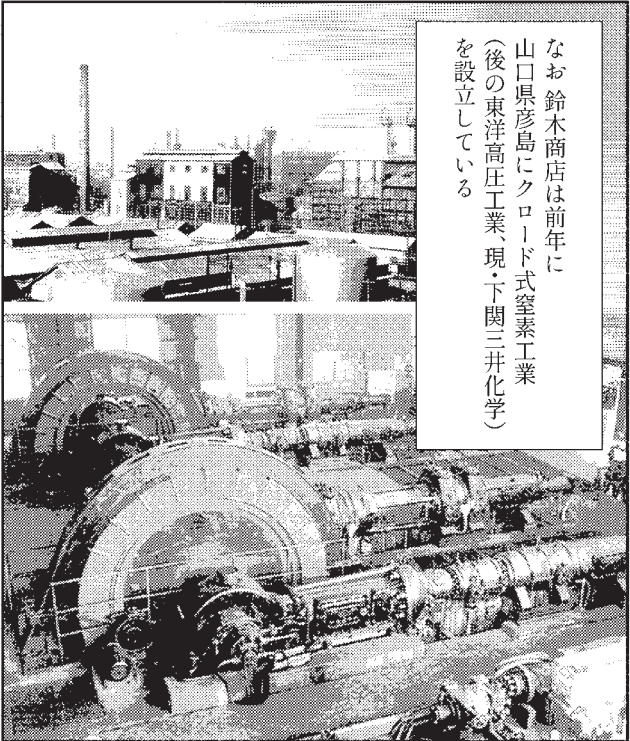


ええっ?!
そんなに早く
決められて
大丈夫ですか?

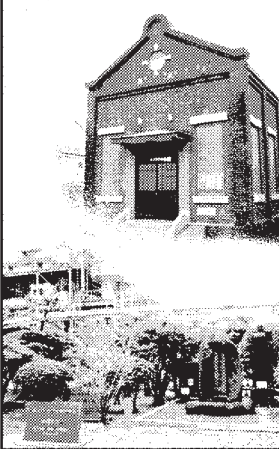


大正一二(一九三三)年
野口遵は
宮崎県延岡に工場を建設
翌年には
合成アンモニアの
製造を開始する

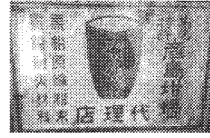
なお鈴木商店は前年に
山口県彦島にクロード式窒素工業
(後の東洋高压工業、現下関三井化学)
を設立している



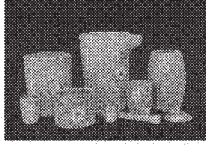
現在の
下関三井化学内には
「我国安母尼亜
(アンモニア)
合成工業発祥之地」
と記された石碑
アンモニア分離機の
モニュメント
そして鈴木商店時代の
建物も現存している



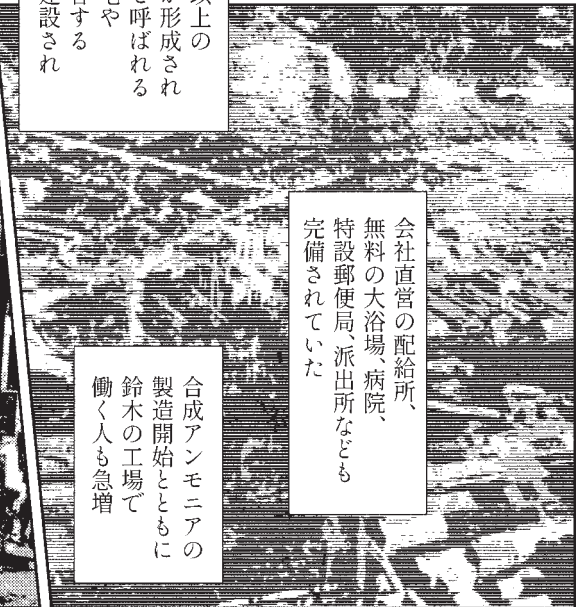
彦島には既に
日本金属彦島製錬所
(現・彦島製錬)
彦島増埒
(現・日新リフラテック)
の工場があり



人口一万人以上の
「職工の町」が形成され
「職工長屋」と呼ばれる
従業員の社宅や
独身者を収容する
「合宿所」が建設され

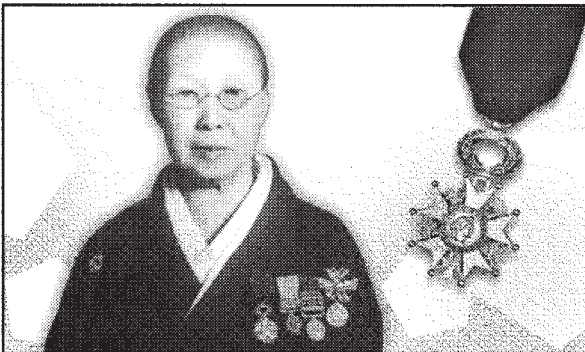


鈴木商店は
大正一三(一九二四)年に
下関と彦島西山地区間を結ぶ
山陽電気軌道
(現・サンデン交通)を設立した



会社直営の配給所、
無料の大浴場、病院、
特設郵便局、派出所なども
完備されていた

合成アンモニアの
製造開始とともに
鈴木の工場で
働く人も急増

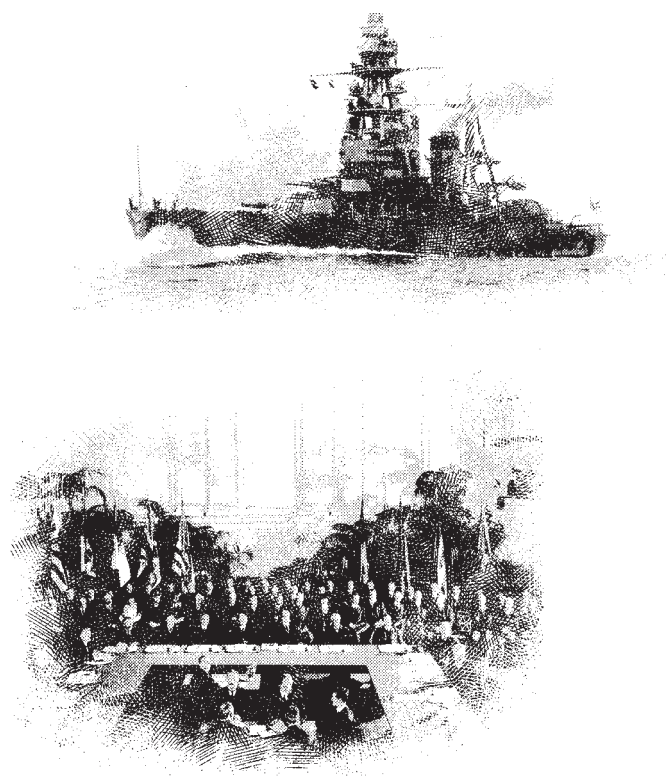


大正一五(一九二六)年には
「クロード式窒素工業
(現・下関三井化学)」の設立
そして技術導入の功績が
高く評価され
フランス政府より最高位の
レジオン・ドヌール勲章が
鈴木よねに贈られた

第2章

鈴木商店

ワシントン海軍軍縮条約による痛手、
台湾銀行の介入





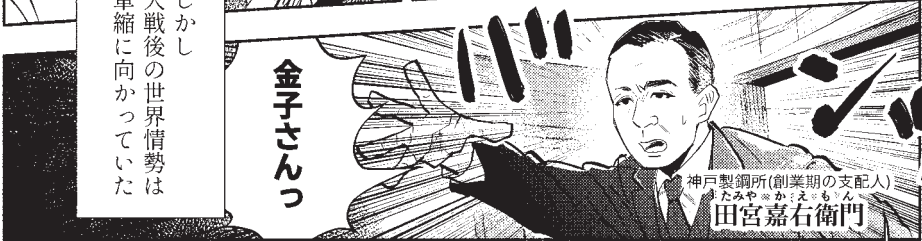
高畑よ……
鈴木は経営は厳しいが日本の海軍力は米・英に次ぐ世界第三位海軍で八八艦隊建造計画がある
これで鈴木重工部門は一気に回復するぞ

鈴木も株主として日本製粉の原料、販売面でも協力していくんじゃ

しかし
大戦後の世界情勢は軍縮に向かっていた



金子直吉は海軍の計画に期待していた



金子さんっ

神戸製鋼所(創業期の支配人)
たみやかへもん
田宮嘉右衛門



なんと……

これで重工業は大打撃を受けるぞ……



ワシントンで海軍軍縮条約が締結されました！
もう軍需は壊滅的
です……

……金子さん
心配無用です

神戸製鋼所は
ダイーゼルエンジン、
空圧縮機、セメント機械、
紡績機械など民生用機械に
注力しています

ロンドンの高畑より
刺激を受けてきました

……そうだな
鈴木にはまだまだ
優れた事業や人材が
ある

よしっ

やれることは
なんでも
やってみよう
じゃないか

福澤諭吉の婿養子であり
実業家の福澤桃介は、
「明治・大正の産業革命は、
鈴木商店から発せられた」
と評した

論拠として福澤は
ダイーゼルエンジン
製造技術の導入による
「運輸交通の高速度化」(神戸製鋼所)
「人絹の製造」(帝国人造絹糸)
合成アンモニアによる
「窒素肥料の製造」
(クロード式窒素工業)が
いずれも鈴木商店が
端緒を開いた先駆的な事業で
あることをあげた

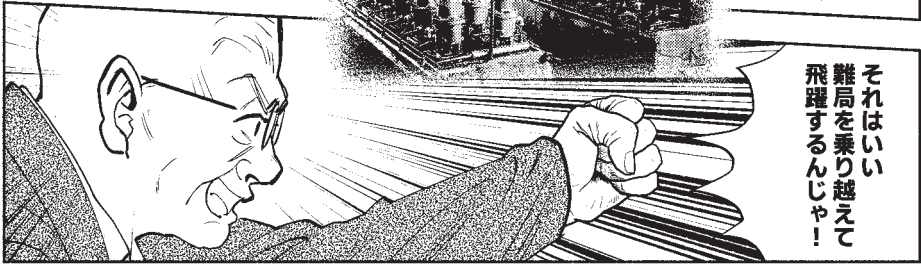


この難局こそ
鈴木の仲間たちと
「共創」と「共有」です

神戸製鋼所
(元鳥羽造船所工場主)
つじみなと
辻湊

鳥羽電機製作所
おだじま・しゅうぞう
小田嶋修三

いま
鳥羽造船所の電機部門
(現・シンフォニアテクノロジー)
にて小田嶋修三くんが
帝人の高速の人絹糸用
ポットモーターを開発中です
これで帝人での人絹の
大量生産が可能になり
海外に一気に打って
進めることができます



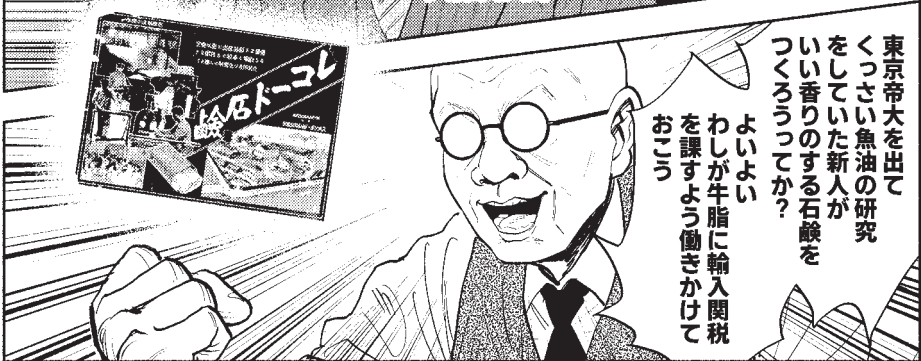
それはいい
難局を乗り越えて
飛躍するんじゃない!



*のち、澁谷油脂創業者
しおや よしお
澁谷義雄

鈴木商店製油所兵庫工場長
くぼた しろう
久保田四郎

金子さん
王子、保土ヶ谷と
関東に進出し
硬化油事業では鈴木は
最大手(現・日油)に
なりました
次は国産の油から
石鹸を製造しようかと
我が国は輸入した牛脂を
原料使っています
原料を海外に頼っては
いけません



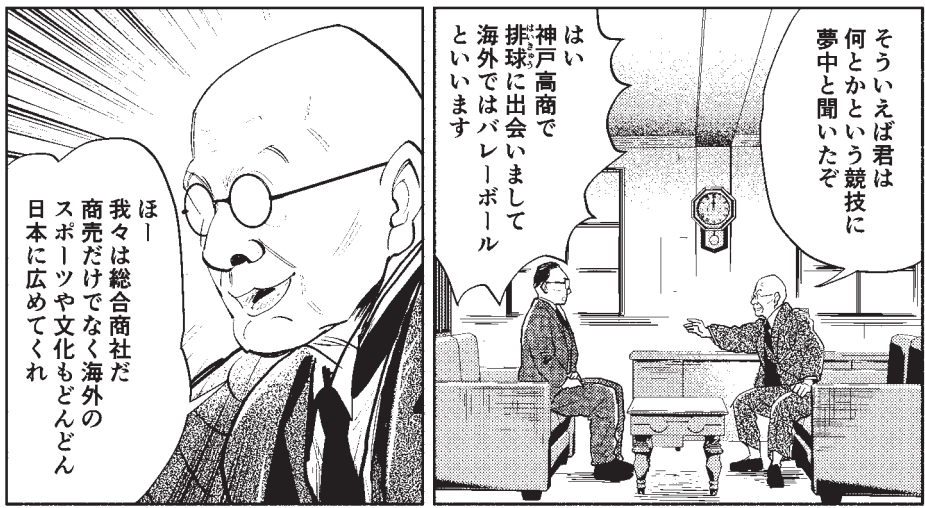
東京帝大を出て
くっさい魚油の研究
をしていた新人が
いい香りのする石鹸を
つくろうってか?
よいよい
わしが牛脂に輸入関税
を課すよう働きかけて
おこす

※ 鈴木商店の香港、青島、浦塩(現・ウラジオストク)で油脂取引に携わっていた澁谷義雄が、金子直吉の助言を受け独立し澁谷油脂を設立。後に天然油脂から石鹸の製造を開始。



やあ須原政一くん
君は亡き
西川文蔵支配人の
書生だったな

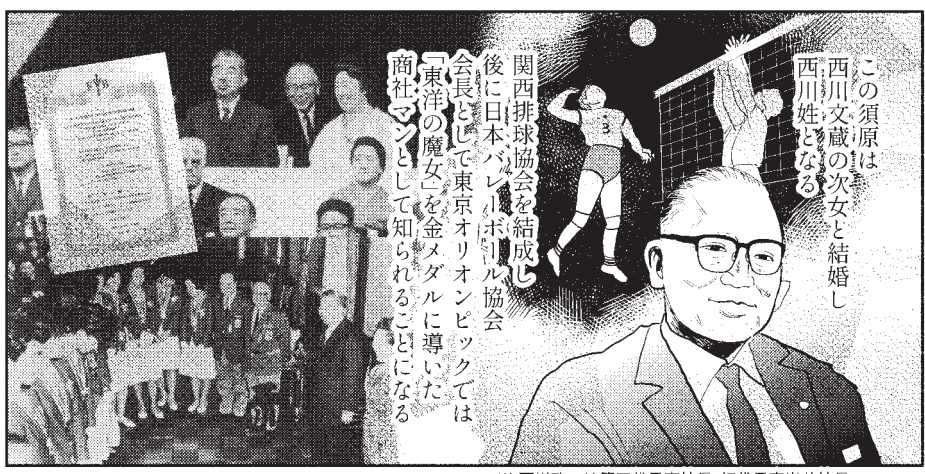
はい
鈴木の奨学金制度で
神戸高商に通わせて
もらいました
西川さん
そして鈴木商店の
御恩に報いるため
頑張ります



そういえば君は
何とかという競技に
夢中と聞いたぞ

はい
神戸高商で
排球に出会いました
海外ではバレーボール
といいます

ほー
我々は総合商社だ
商売だけでなく海外の
スポーツや文化もどんど
日本に広めてくれ



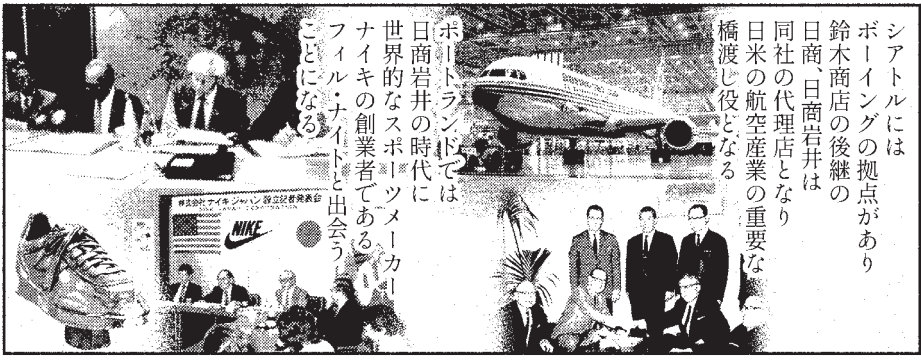
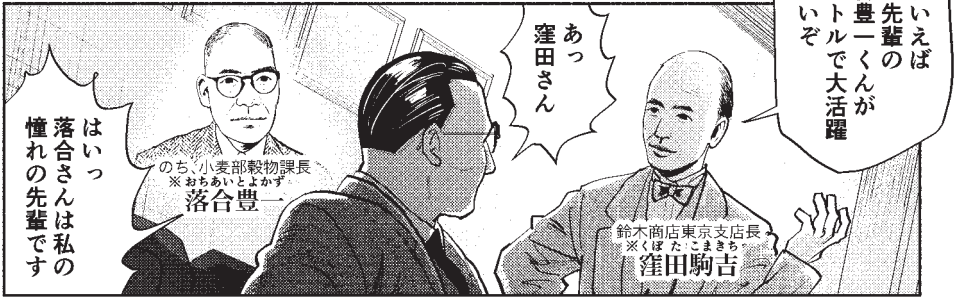
この須原は
西川文蔵の次女と結婚し
西川姓となる

関西排球協会を結成し
後に日本バレーボール協会
会長として東京オリオンピックでは
「東洋の魔女」を金メダルに導いた
商社マンとして知られることになる

※ 西川政一は第四代日商社長、初代日商岩井社長。

※ 落合豊一は第三代日商社長。

※ 窪田駒吉は鈴木商店四天王の一人。のち、日本製粉社長。

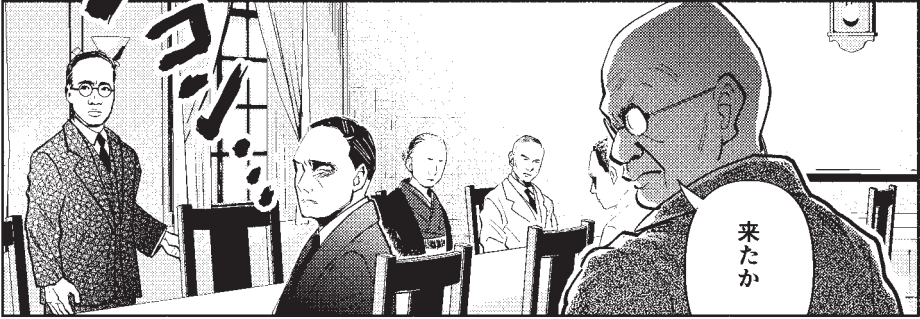


新たな
事業展開を続ける
鈴木商店だったが

大戦終結の影響から
脱し切ることが
できなかった



来たか



台湾銀行です

台湾銀行副頭取
しもさかとうたろう
下坂藤太郎

大戦終結後
当行の
鈴木商店向け
融資が膨らみ
台銀の総貸出の
三割を超えて
います

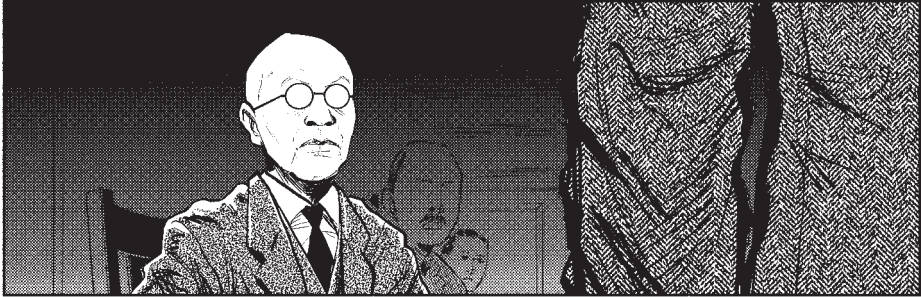
このままでは
共倒れしてしまいます



台湾銀行が
鈴木商店の機構改革を主導し
大正一二(一九一三)年に
事業会社の持ち株会社である
「鈴木台名会社」と貿易部門の
「株式会社鈴木商店」に分離
経営の近代化を試みた

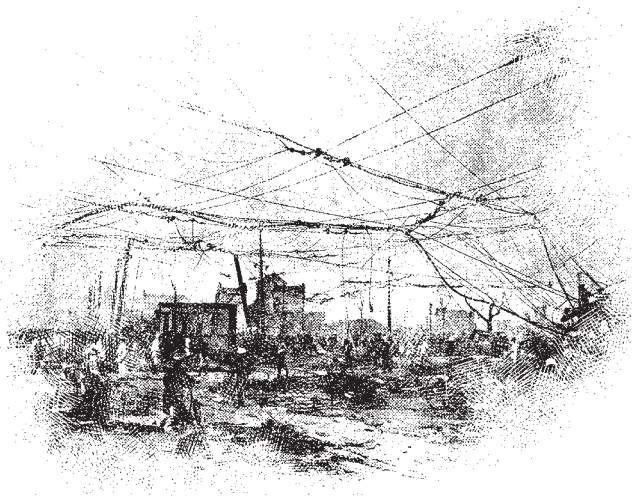
ふんっ株式の公開
だけはしないぞ
稼いだ金はすべて
新たな事業に回す
なぜ働いていない株主
に配当しなければ
ならんのだ

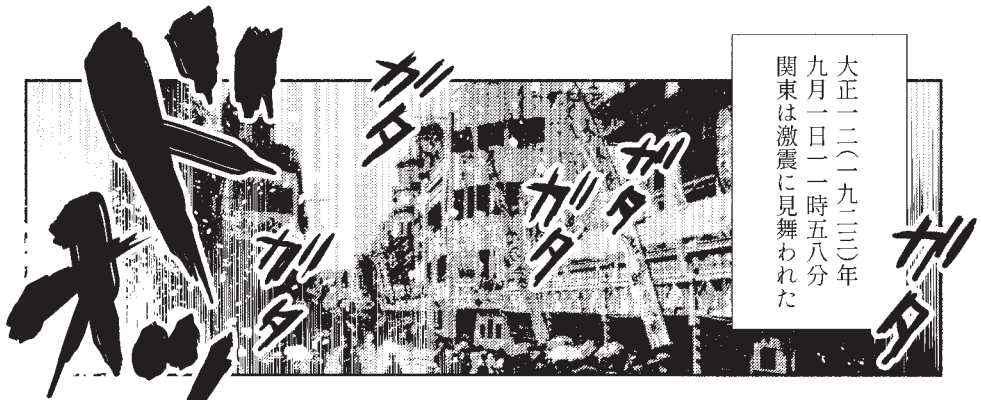
鈴木商店の皆で得たものは
鈴木よねさんのもんじや
そして日本国民のために
使うんじや



第3章

関東大震災、鈴木商店の破綻

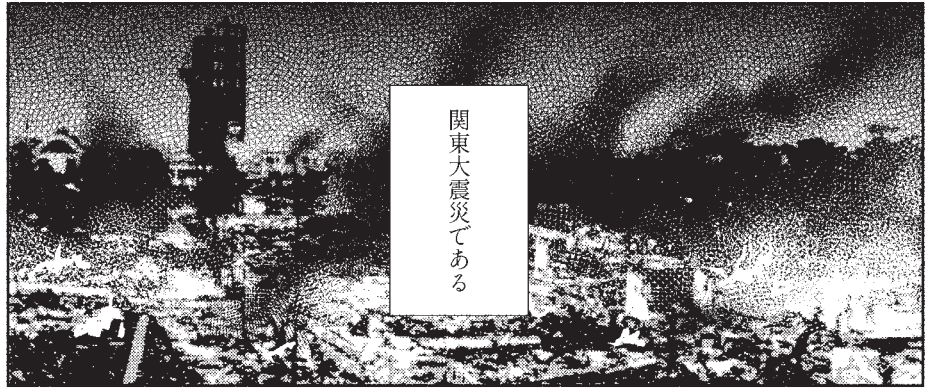




大正一二(一九三三)年
九月一日一時五八分
関東は激震に見舞われた



なにーっ
東京が
壊滅した
だどっ!?



関東大震災である

いいか
岩井商店は大阪鉄板
(後・日新製鋼、
現・日本製鉄)で
トタン(亜鉛鉄板)を
製造している
復興に必要な資材だ
絶対に公定価格を守れ
暴利をむさぼるな!!

当時
トタンは屋根材など
建築材料として
大量に使用され
震災により価格は
五倍に高騰していた

外国商社の
東京出張所の
安否を確認して
彼らの本国に
報告するんだ

はいっ!

関東地域にある木材を
即日東京市に寄付しろ

私は一〇〇万円を
寄付しますわ

岩治郎
松方さんと一緒に
船で東京に行きなさい
お父様の松方正義閣下の
安否が不明なの

大工も派遣しろ
墨田川の
永代橋なども
復旧にあたれ
後藤新平さんが
復興計画を
作るそうじゃ
後藤さん……いや

この日本を
支えるんじゃー!!

※この義捐金は個人として最高額となった。

鈴木商店の動きは迅速で早くも震災翌日には米・麦を満載した鈴木商店の自社船「華山丸」が出発した

警察、海軍から要請です朝鮮人が井戸に毒を入れたという噂が広まり狙われてるとか……

米騒動のときと同じ風説の流布じゃ華山丸を活かせ鈴木商店の船は人の命も運ぶんじゃない

華山丸は朝鮮人、中国人約三〇〇人乗せ大阪まで避難させるさらに鈴木商店は自社船二隻を派遣した

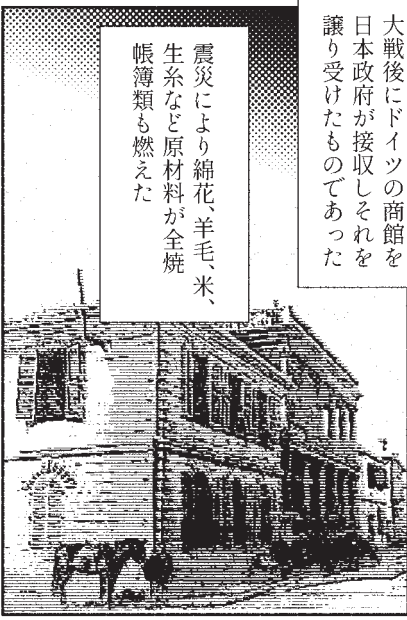


そうか 横浜支店も被害が出たか……



日本綿花横浜支店は 大戦後にドイツの商館を日本政府が接収しそれを譲り受けたものであった

震災により綿花、羊毛、米、生糸など原材料が全焼帳簿類も燃えた



燃えてしまったなら仕方ないまた商うまでだこれまで関西以西から積み出される生糸も横浜から輸出していたがこれを機に神戸港からも輸出しよう



大正一二(一九二二)年
神戸港から生糸が初めて
米国向けに輸出された
日本綿花もこのとき
加わっている

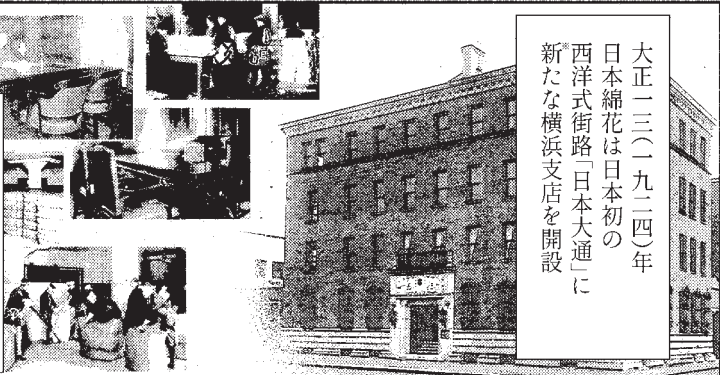
昭和二(一九二七)年には
神戸市立生糸検査所が
設立されるこの時期
日本の生糸輸出のうち
三割を神戸港が占めた



※現在のデザイン・クリエイティブセンター(KIITO)。

大正一三(一九二四)年
日本綿花は日本初の
西洋式街路「日本大通」に
新たな横浜支店を開設

建物は第二次大戦後
GHQに接収され
以降は国、横浜市と
所有が移りつつも現存
横浜市指定文化財に
指定されている



※現在は、プロ野球球団が運営する複合施設「THE BAYS」、倉庫棟は「中区役所別館」として使用されている。

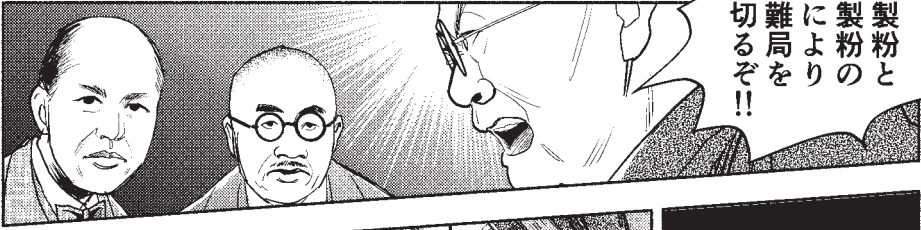
金子直吉は
大正四(一九一五)年から
鈴木商店が破綻する
までの一二年間
東京ステーションホテルの
20号室を借り切っていた

そこには
井上準之助日銀総裁や
松方幸次郎なども
出入りしていた

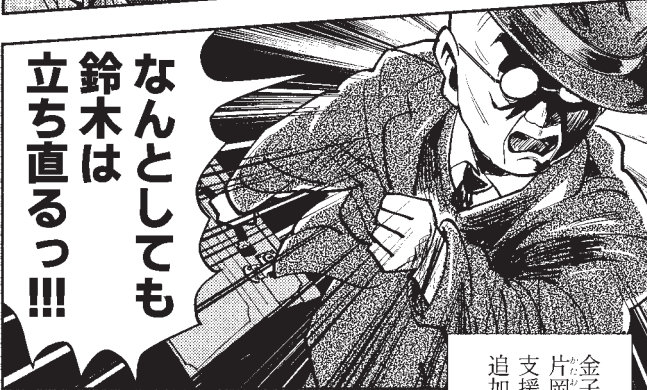
経営が悪化
してからは連日
鈴木商店の幹部を集め
再建の策を練っていた



日本製粉と
日清製粉の
合併により
この難局を
乗り切るぞ!!

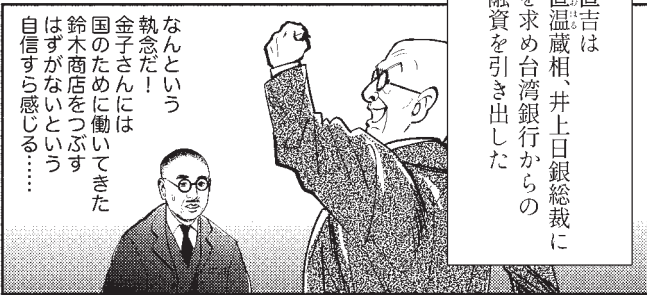


しかし合併は
大正一五(一九二六)年
一〇月三日には
新聞に発表されるも
直前に破談

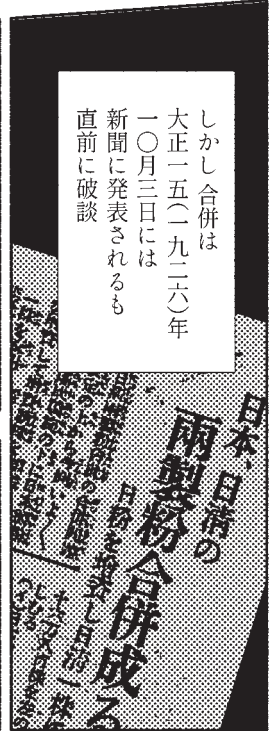


なんとしても
鈴木は
立ち直るっ!!!

金子直吉は
片岡直温蔵相、井上日銀総裁に
支援を求め台湾銀行からの
追加融資を引き出した



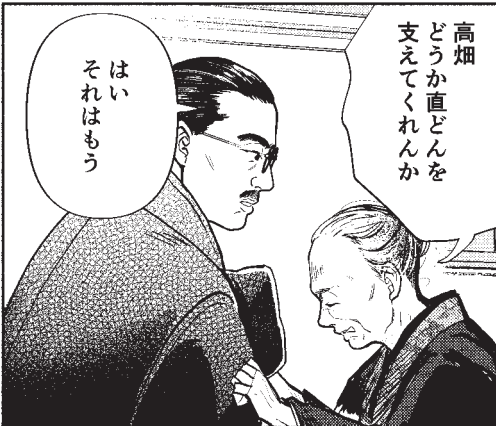
なんという
執念だ!
金子さんには
国のために働いてきた
鈴木商店をつぶす
はずがないという
自信すら感じる……



この年
台湾銀行の要請を受けて
ロンドンから高畑誠一
そしてちよが帰国



おばあちゃん
今帰りましたわ
遅くなり
ました……



高畑
どうか直どんを
支えてくれんか

はい
それはもう

ただ
鈴木はもう……

政府は関東大震災後被災地を救済するために震災前に振り出された手形を日本銀行が再割引することで市場に現金を供給した

さらにこの手形には支払い猶予が与えられたびたび延期をしてきた

そして
昭和二(一九二七)年三月震災手形の早期処理を図るための関連法案について国会で審議を行うも紛糾

実質
台湾銀行
鈴木商店の救済
ではないか?!



台銀の総貸出のうち七割が鈴木商店であること自体がおかしい!

昭和元年末の時点で震災手形の未決済残高二億六八〇万円のうち特殊銀行が一億二一八〇万円を占めた。そのほとんどが台湾銀行関係でありしかも九二〇〇万円が鈴木商店関係であることが判明する

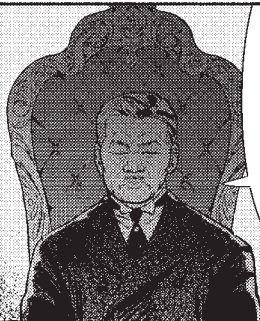
財閥とは異なり
自前の銀行を
持たない鈴木商店は
国策銀行の台湾銀行に
頼らざるを得なかった
のである



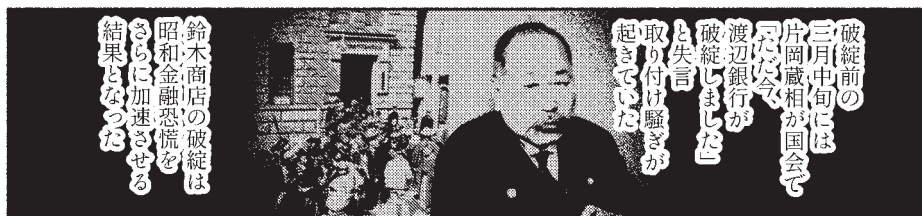
国債を発行し震災手形の処理をするただし付帯条件として台湾銀行の強固な基礎を樹立するため抜本処理をすることとする

一連の議論で台湾銀行と鈴木商店の経営状況の悪化が明るみになったことから台湾銀行への短期融資が一斉に引きあげられ台湾銀行は休業を余儀なくされる

昭和三(一九二七)年
三月二十六日
台湾銀行は鈴木商店に
新規貸出の停止を通告



そして
昭和二（一九二七）年
四月二日
鈴木商店は
破綻した



破綻前の
三月中旬には
片岡蔵相が国会で
「たゞ」
渡辺銀行が
破綻しました
と失言
取り付け騒ぎが
起きていた

鈴木商店の破綻は
昭和金融恐慌を
さらに加速させる
結果となった



鈴木商店の創業は
明治七（一八七四）年
貿易年商で日本一と
なったのは四〇余年後の
大正六（一九一七）年

頂点に立ってから
わずか二〇年後の
破綻となった

昭和の始まりに起きた
鈴木商店の破綻は
資本がさらに財閥に集中する
きっかけとなった

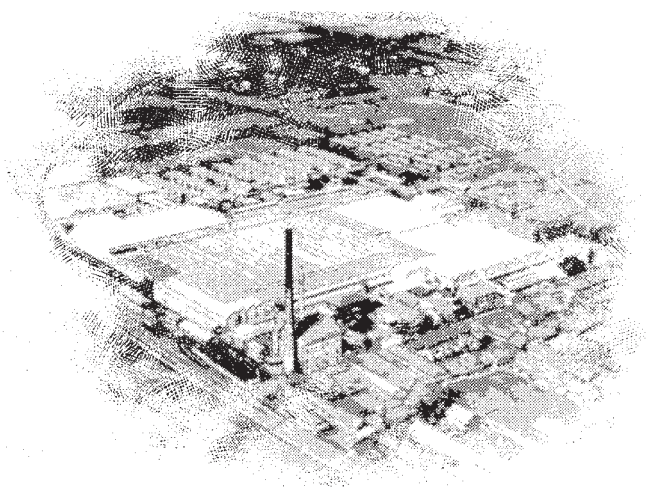
昭和四（一九二九）年には
アメリカに端を発する
世界大恐慌が起き
日本経済も暗闇に引きずり
込まれる

そして次第に
戦争への道を歩んで
いくこととなる

第4章

岩井商店

中央毛糸紡績
(現・トーア紡コーポレーション)設立、
長岡禅塾設立



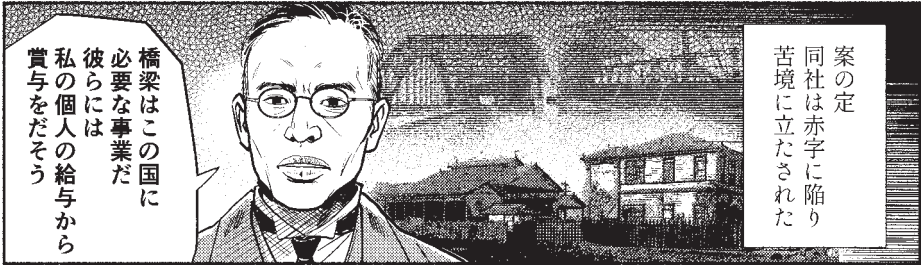


……
重工業不振が
起きるだろう
岩井の
重工業といえば
日本橋梁だな



大正一（一九二二）年の
ワシントン軍縮会議は
岩井商店にも
大きな影響を与えた

勝次郎社長っ！
海軍軍縮条約が
締結されました



案の定
同社は赤字に陥り
苦境に立たされた

橋梁はこの国に
必要な事業だ
彼らには
私の個人の給与から
賞与をだそう



これからいよいよ
毛糸の国産化に着手する
君たちがいれば大丈夫だ



この頃
岩井商店では
大きな
プロジェクトが
進んでいた

みんな
よく戻って
きてくれた

小西音夫くん
浅井秀雄くん
花水馨くん

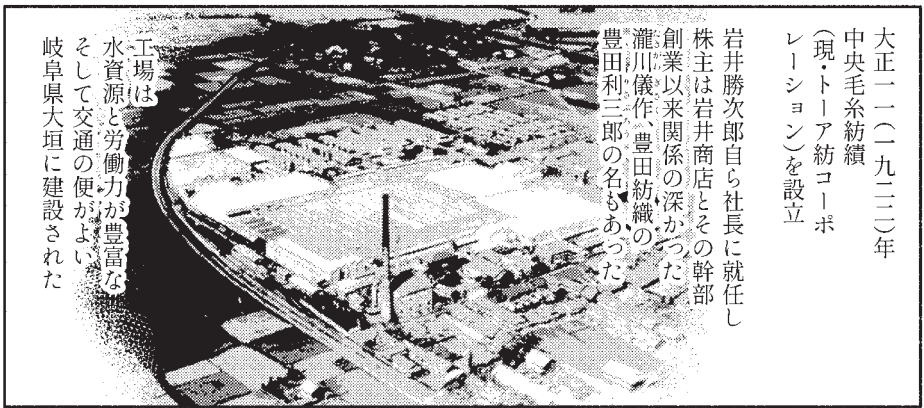


第一次大戦中ロシアから軍用衣服の注文が大量に入るなど毛織物産業は活況を呈じていた

岩井商店は原料の毛糸輸入では最大手であり国産化は自然の流れであった

翌年には花水警を欧州の毛織工場の視察に派遣

大正七(一九一八年)年
小西音夫、浅井秀雄の二名を豪州の羊毛学校へ留学させる



工場は水資源と労働力が豊富なとして交通の便がよい岐阜県大垣に建設された

大正一一(一九二二)年中央毛糸紡績(現・トリア紡コーポレーション)を設立

岩井勝次郎自ら社長に就任し株主は岩井商店とその幹部創業以来関係の深かった瀧川儀作、豊田紡織の豊田利三郎の名もあつた

※ 豊田利三郎は豊田自動織機製作社長、トヨタ自動車工業初代社長を歴任。



これに伴って毛織物需要も増加した

また女学生は袴姿からセーラー服に代わり洋装化は一段と広まった

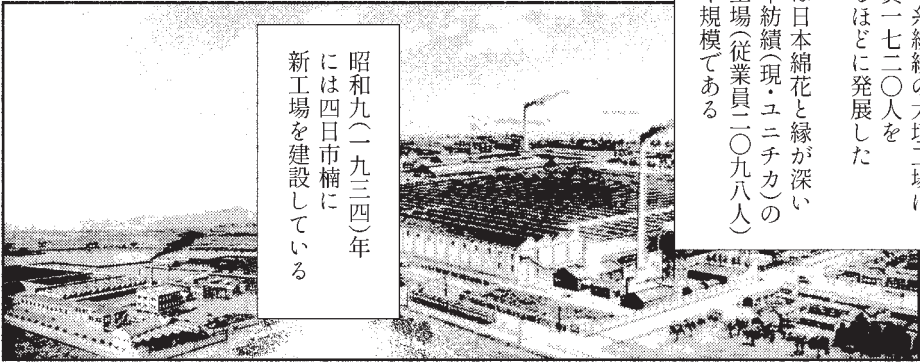
「アツパツパ」の呼び名の簡単服が流行

婦人用の簡単服が実用化されていく

関東大震災により災害時の着物の非活動性が問題になり

昭和八（一九三三）年には
中央糸紡績の大垣工場は
従業員一七二〇人を
抱えるほどに発展した

これは日本綿花と縁が深い
大日本紡績（現・ユニチカ）の
大垣工場（従業員一〇九八人）
に次ぐ規模である

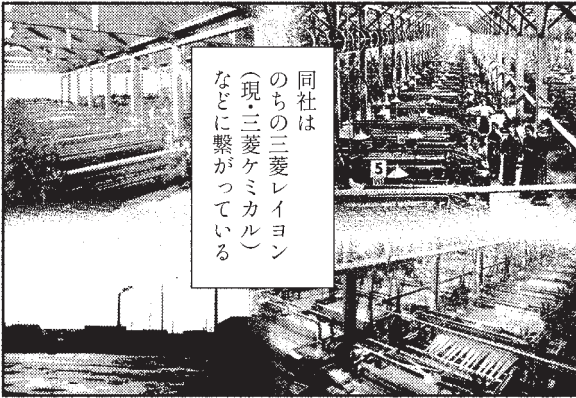


昭和九（一九三四）年
には四日市楠に
新工場を建設している

なお
鈴木商店も
毛織物事業を
展開していた

大正六（一九一七）年に
東京毛織を設立し
千住、王子、大井、
岐阜大垣、大阪泉尾の
五工場体制にて
我が国の毛織物事業に
独占的な地位
（シェア六三％）を
占めた

同社は
のちの三菱レイヨン
（現・三菱ケミカル）
などに繋がっている



そうか
急拡大路線が
このような結果を
生んでしまった
……



その鈴木商店が
破綻した一報は
すぐに岩井勝次郎の
もとにも届いた

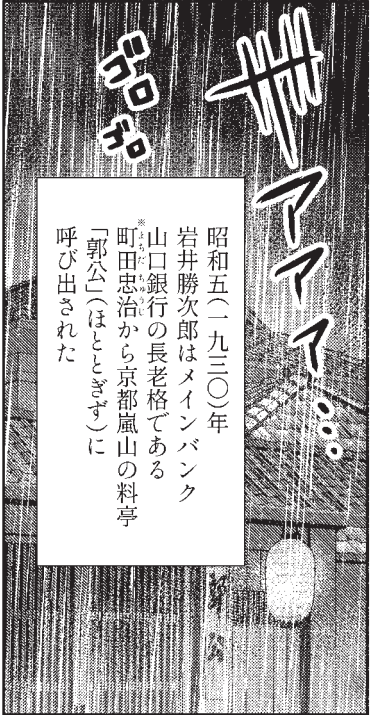
勝次郎社長……
鈴木商店が
破綻しました





……が、金子さんがつくった事業は我々を助けてくれるかもしれんぞ

えっ？
それは
どうい
う……



昭和五(一九三〇)年
岩井勝次郎はメインバンク
山口銀行の長老格である
*町田忠治から京都嵐山の料亭
「郭公」(ほととぎす)に
呼び出された



時間がそれを
証明してくれる
耐え忍ぼう

戦後不況
鈴木商店の破綻
世界恐慌などの
経済危機は
岩井商店にも
無縁ではなかった

岩井商店は
大正八年(一九一九)年下期から
昭和七(一九三二)年下期まで
二期(一三年間)連続無配となる

日本曹達工業
(現トクヤマ)
立ち上げの不振が
大きく響いてきた



岩井商店は
無配続きだ
君はそれでも
男か!?

※ 日銀出身、東洋経済新報社設立。大蔵大臣、商工大臣、農林大臣、日本進歩党・立憲民政党総裁。



株式会社
三和銀行
銀行 中核 資産

雨は
いずれ
やみませす

山口銀行も
岩井商店向け融資が
拡大し経営が不安定化
鴻池、三十四銀行との
合併を決意

昭和八(一九三三年)
これら三行が合併し
三和銀行
(現・三菱UFJ銀行)
が誕生する

大阪三和銀行を創立
新三和銀行を創立
新三和銀行を創立
新三和銀行を創立

※ 山口銀行は岩井商店と、三十四銀行は複数の日本綿花発起人と関係が深いことから、戦後、日尚岩井、ニチメンとともに三和銀行の親睦会であるみどり会に所属。

そしてついに
長年の苦勞と挑戦が
報われはじめる

事業とはひとたび
手がけたらからには
どんな困難にあっても
成し遂げなければならぬ
ただし世間並みの
努力ではダメだ

他社にない新製品
本当にお客さんが
欲しがっている
塗料をつくれれば
売れるその芽が
関西ペイント
にはあるはずだ

大正七(一九一八)年創業の
関西ペイントは反動不況の影響で
四年目にして危機を迎えていた

紹介しよう
このたび
常務に就任する
織田秋之助くんが
まだ三二歳だが
しっかりしている

そしてもうひとり
児玉正雄くんが

新入社員ですが
提案してもいい
でしょうか？

児玉は東京帝国大
工学応用科学科卒
同大学の田中芳雄教授の
紹介で入社した

もちろん
なんだ？

ラッカーという
塗料を開発させて
ください！

従来の塗料では乾くまで
十数分必要ですが
ラッカーは
あっという間に乾き
光沢、耐水性にも優れます

これから
自動車の時代
すなわち大量生産の
時代が来ます

児玉くんによると
スプレーで
塗布するそうです
やらせてください！

.....
声無くして人を呼ぶ、と言う
いい物を安く売っておけば
裏店で売っておっても買ってくる
粗末な物を高く売っておいたら
銀座の真ん中で売っていても
買いはこない

これは商売人としては
一日も忘れてはならぬ

いいだろう
最高の塗料を
開発してくれ

はいっ！

大正一五
（一九二六）年
我が国初の
国産ラッカー
（ブランド名・セルバ）
の工業化に成功
同じ頃日本の
自動車産業が勃興
関西ベイントは
スプレー塗装の
普及のための
啓蒙活動も行った
そして関西ベイントは
昭和五（一九三〇）年
決算で創業年以来
一二年ぶりの
復配を果たした



一方 大戦後
海外勢のダンピングに
苦しめられてきた
日本曹達工業
(現・トクヤマ)も
転機を迎える

金子さん
ようやく来ましたね
鈴木商店破綻すれども
事業は死なず……

勝次郎社長
どうされ
ました？

帝国人造絹糸の
岩国、三原などの工場が
軌道に乗ってきた
そのおかげで原料である
ソーダ(アルカリ)の
需要が急に伸びている！

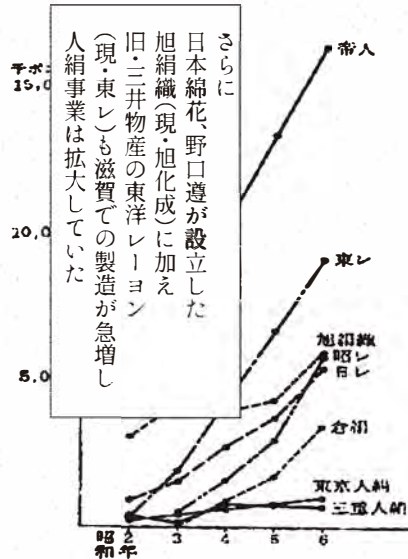
鈴木商店は
破綻した
のでは？

優良な事業は
鈴木商店の
債務を負いながら
自主独立している
日本人だけで
フランス一国の
生産量に匹敵
するそうだ

なんと……！
たしかに人絹は
日本の重要な
輸出品に
なってきました

我々が踏ん張ったからこそ
国産のソーダが供給できている
諦めていたら日本の人絹も
海外には勝てなかったはず
日本の化学工業が
世界に打って出る瞬間だ

おかげで日本曹達も
一四年経ってようやく
配当してくれた



グラフは『滋賀県史』昭和編 第4巻(商工編)より



それで 岩瀬くんは どうした？
はい……社員三三名 工員一名を伴って退社 徳山工場の隣接地に 工場を構えました 名前も東洋曹達工業 (現・東ソー)だと……



このとき岩井商店から九名 徳山鉄板から三名が 日本曹達工業(現・トクヤマ)に 派遣された

勝次郎が手掛けたソーダの製造は 現在でも続いている



分かりました もう私がいなくても 関西ペイントは 大丈夫です

そして
大日本セルロイドは
岩井商店を通じて
世界中にセルロイドを輸出
特に欧州向けには
ロンドン支店の
小林節太郎が活躍した



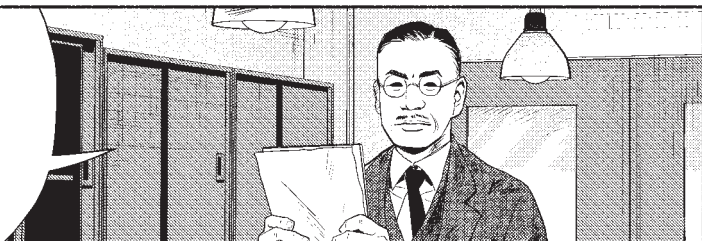
大日本セルロイドでは
新たにセルロイドを原料とした
写真と映画用フィルムの国产化に
向けた準備が進められていた

昭和九(一九三四)年
大日本セルロイドの
子会社として
富士写真フィルムを設立



※小林節太郎は富士写真フィルム第三代社長(一九六〇〜一九七一年)に就任。
※長男の小林陽太郎は富士ゼロックス社長、会長に。経済同友会代表幹事。

勝次郎社長
商工省が
写真フィルム工業を
ソーダ、染料に次いで
国の助成産業に
する方針です



皆頑張ってくれているな
岩井商店も協力を惜しむな

こうして同社設立にあたって
岩井商店と関係が深い
長嶋鷲太郎(岩井商店法律顧問、
日本曹達工業社長)が監査役に
西宗茂二(大日本セルロイド取締役)
が取締役として就任
そして小林節太郎(当時三四歳)が
営業部長として抜擢された



経営に禅の精神を採り入れたことで知られる岩井勝次郎はそれを教育にも広めようとしていた

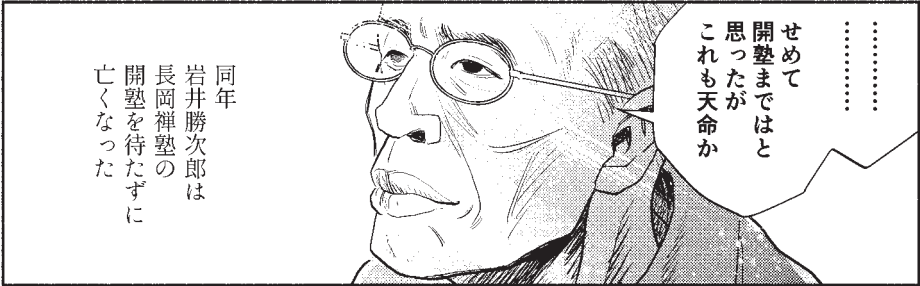


しかし

昭和一〇（一九三五）年
京都の長岡天神に近い敷地に
長岡禅塾の開塾を決意する



大戦時には
成金が跋扈し最近では
軍部の暴走が目立つ
人心の荒廃が著しい
禅塾を開設し
教育にも
力を入れよう



.....
.....
せめて
開塾まではと
思ったが
これも天命か

同年
岩井勝次郎は
長岡禅塾の
開塾を待たずに
亡くなった

晩年に口述された
岩井勝次郎の
遺訓が現存する

そこには
子孫への助言として
バランス経営の推進や
適性人事が重要であること
浮利を求めず
誠実に汗を流すべきこと
家庭円満を維持すべきこと
などが記されている

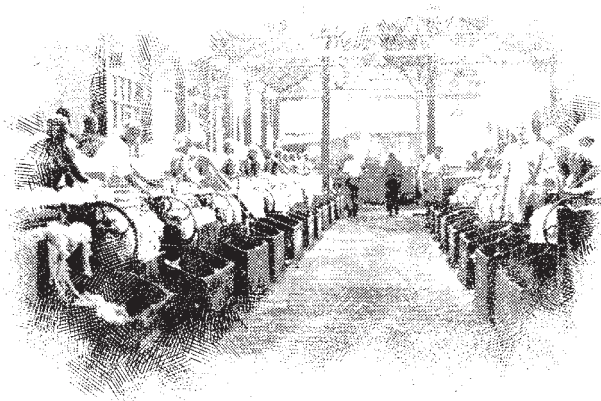
岩井商店はその後
岩井産業と商号を変更し
事業を継続していく――

遺訓序
先考は生も静徳徳は
常徳徳を以て相伝はと
氣魂を以て相伝はと
本遺訓は先考の其の
得られたる遺徳を以て
言の旨を以て先考の
後代の子弟に以て

第5章

日本綿花

喜多又蔵の死、綿布輸出世界一への貢献



喜多社長は
パリ講和会議に
随行してから
一気に名を上げたな

ほんまにそうや
大阪の三品取引所内に
綿花市場が開設されたが
パンフレットを作つて
農商務省を説得したとか

日本綿花は
大正一二(一九二二)年に
エジプトのアレクサンドリア
にて商社として初めて
出張所を開設していた

最近は
東アフリカに
熱心らしいぞ
日本領事や
横浜正金銀行も
日綿を頼りに
しているらしい

タンガニカ
(現・タンザニアの一部)
奥地のミケンにある
繰り綿工場を買収せよ
その工場に千ヘクタールの
土地があるそこで
綿花の試験栽培をしよう

はいっ!
日本人による東アフリカ
投資の第一号ですな
さらに東アフリカ
の綿花栽培第一号
でもあります

以降日綿はウガンダ、
タンガニカで九工場の
綿花関連会社を運営した

※ 昭和三(一九二八)年から二年間試験栽培を実施。

喜多社長は
天皇陛下から
会食に招かれ
東アフリカでの
綿花栽培について
ご質問を受けた
らしいぞ

なんと

喜多社長は
鉄道事業の方にも
忙しいと聞いたぞ

ああ
神戸・箕合と
大阪・桜島間の二六キロの
阪神海岸鉄道の計画か

神戸財界からは
川崎造船所の
松方幸次郎さん
鈴木商店の
鈴木岩治郎さん

そして
日本綿花監査役で
マツチ王の
瀧川儀作さん
大阪財界代表からは
稲畑勝太郎さん

喜多社長が発起人と
なったらしい

大阪商工会議所の
会頭選挙で喜多さんは
稲畑さんと争うほど
もう喜多さんは
大阪財界の顔や

しかし
この阪神海岸鉄道計画は
鈴木商店破綻を受けて
頓挫してしまつた

だが喜多は
この鉄道事業の
経験も無駄には
しない

大阪の皆は
鉄道開通もあつて
有馬温泉ばかりだ
この
和歌山の白浜温泉を
もっと身近に感じて
もらいたい

和歌山へ交通新紀元刻

阪和電気鐵道株式會社

喜多又蔵は

紡績会社の仲間とともに

大阪・和歌山間を結ぶ

阪和電気鐵道の

設立発起人代表を務める

大正一五(一九二六)年開業

これが

現在のIR阪和線である

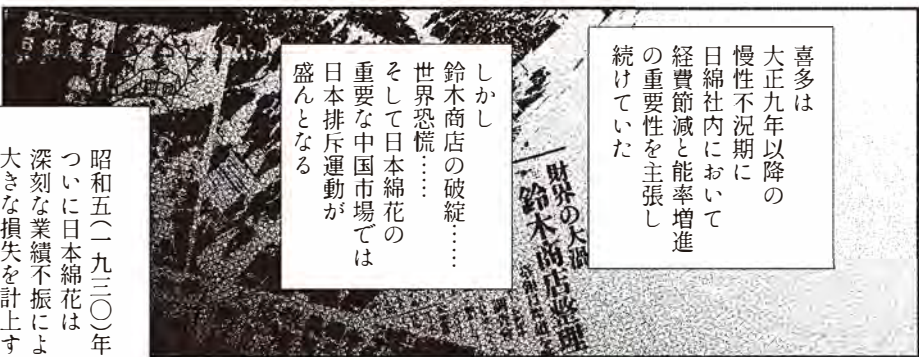


喜多は
大正九年以降の
慢性不況期に
日綿社内において
経費節減と能率増進
の重要性を主張し
続けていた

財界の大派
鈴木商店破綻

しかし
鈴木商店の破綻……
世界恐慌……
そして日本綿花の
重要な中国市場では
日本排斥運動が
盛んとなる

昭和五(一九三〇)年
ついに日本綿花は
深刻な業績不振により
大きな損失を計上する



過度の膨張政策で破綻した鈴木商店のように
なってはならない
前車の轍を踏むことは
避けなければならぬ
減量経営に転換する



喜多は
横浜正金銀行に救済を求め
同行は減資案に応じ
経営再建に必要な融資を
継続した

……しかし
喜多又蔵の引責辞職を
求める声もあった

日清紡が
苦境に立たされた際
日綿は支援してくれた
米綿の売買でも進言し
日清紡の業績に寄与した
喜多君の辞任要求は
黙視するわけには
いかない

社員を日綿の
株主総会に出席させ
反対意見を述べて
阻止するように！

日綿だけの喜多くんではない
彼を財界から失うことは
国家の大損失である



日綿の経営危機が
表面化すると
手形取引を見直す
動きもあった

はいっ！

日清紡績社長
宮島清次郎

日綿と鐘紡は長年
手をつないで進んできた
どれだけ我々のために
尽くしてもらったか
それを思えば
窮地に立った時は
力を貸して早く脱出するよう
協力するのが我々のとるべき
道である
日綿に対する商いの
やり方はいささかも態度を
変えてはならないっ！

鐘紡績社長
武藤山治



喜多又蔵は
持病として
腎臓病と糖尿病
抱えていたが

社長として
あくまでも
困難に対処する
道を選んだ

今は堅実第一
主義であるが
かといって萎縮
しすぎても困る

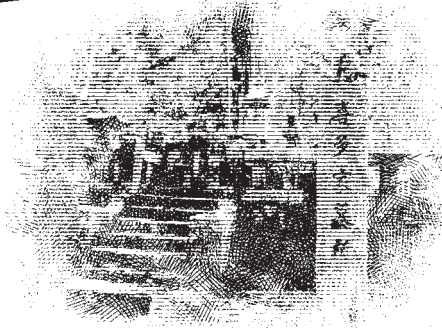
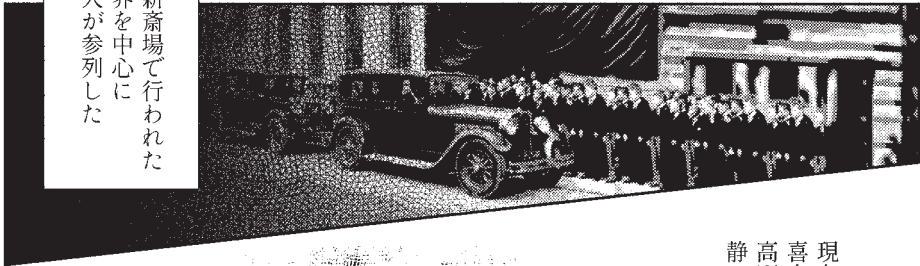
人材が揃い
社員の融和がある
日本綿花の回復は
時間の問題で
案外早いはずだ
日中貿易で果たして
きた役割は大きい

自信と誇りを持つ

しかし
昭和七（一九三二）年
喜多は病状が悪化し
五四歳の若さで
亡くなった



大阪阿倍野新斎場で行われた社葬には財界を中心に約三〇〇〇人が参列した



現在 喜多又蔵は高野山・奥の院にて静かに眠っている

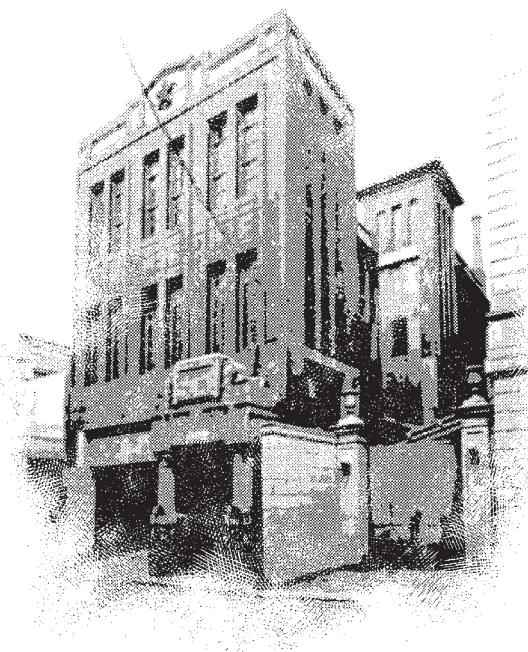


喜多が亡くなった翌年の昭和八(一九三三)年日本の綿布輸出は英国を抜き世界一位となった日本の最大産業である紡績業への喜多又蔵の貢献は計り知れない

喜多の後 第八代社長には南郷三郎が就任 戦後日中輸出組合 理事長として唯一 毛沢東と会談した 商社マン として名高い

第6章

日商設立、それぞれの道



鈴木商店は倒れたがその人材には産業界での再起を図る者もあった

その代表が学卒派の高畑誠一と永井幸太郎であった

多くの若手が我々を頼って鈴木に入社したしな

貿易における鈴木商店の基盤をみすみす三井、三菱に譲ってしまうのは断腸の思いだ

よしっ
何とか新たな会社を作って再起を図ろう！

うむ!!

高畑と永井は出資金集めに奔走する



貿易の知識を持っている人たちが散らばるのは残念だし日本の損失だ
出資に協力しよう

日本の貿易は
三井と鈴木の本柱で
発展してきた

各務さん
ありがとうございます!!
ございます!!

三菱財閥の重鎮
シカガハケンキ
各務謙吉

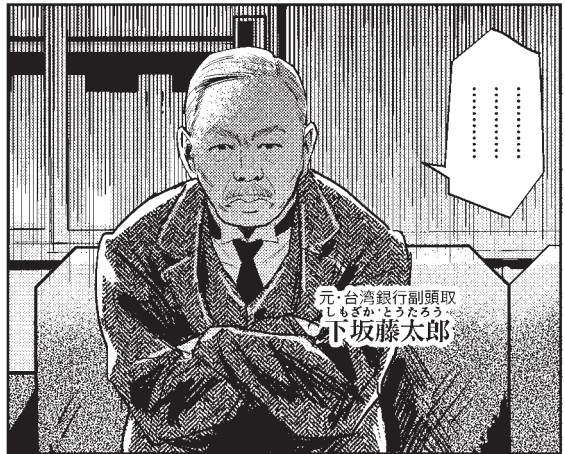
※ 各務謙吉は損害保険業界の父。東京海上火災保険の社長、会長を歴任。



下坂さん
日商の社長を
やって
いただけ
ない
でしょ
うか?



……無給、
出勤も
しない
それで
いいか?



元・台湾銀行副頭取
シモギカトウタロウ
下坂藤太郎



分かった
では私も
出資に
協力しよう

構い
ませんっ!

そして
鈴木商店の残党も含め
三九名が出資者に加わり
昭和三（一九二八）年
二月八日

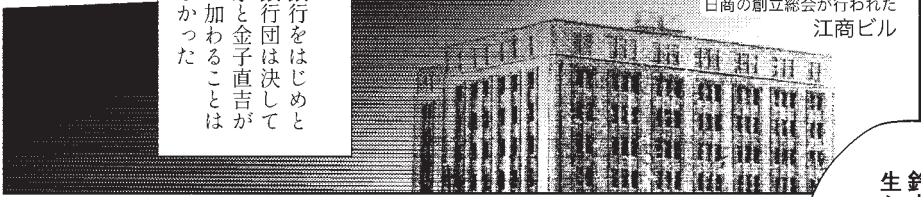
日商を設立



高畑、永井のほか
TATAの銃鉄取引の
責任者の多賀二夫、
鉄材部の責任者であった
楓英吉、
若手では落合豊一、
西川（須原）政一、
天下三分の宣誓書を
ロンドンに届けた
小川実三郎の顔もあった

しかし
台湾銀行をはじめと
した銀行団は決して
鈴木家と金子直吉が
日商に加わることは
許さなかった

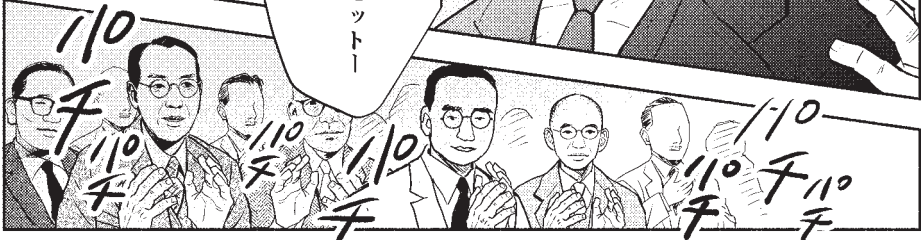
日商の創立総会が行われた
江商ビル



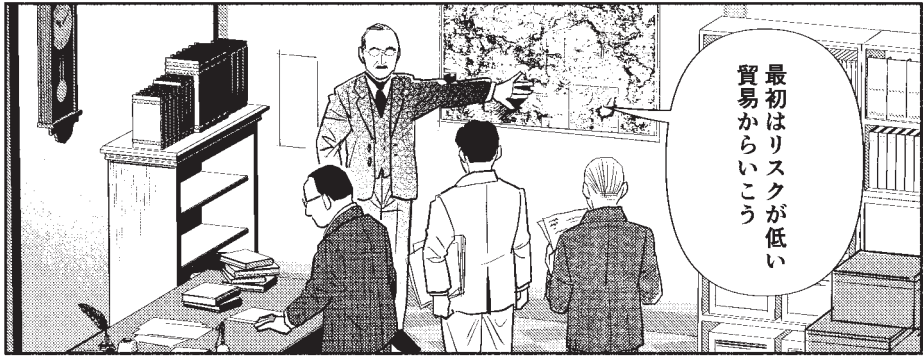
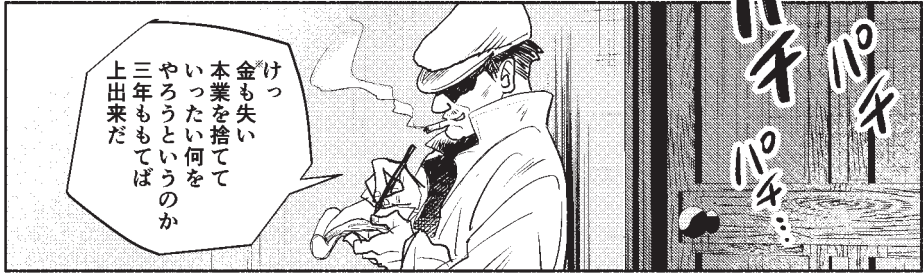
鈴木商店破綻の教訓を
生かさなければならぬ

「スモール・スロウ・バット・ステディ
（ちっぽけで、歩みも遅くても
仕方がない。堅実に行こう）」

これを
新会社のモットー
とする！

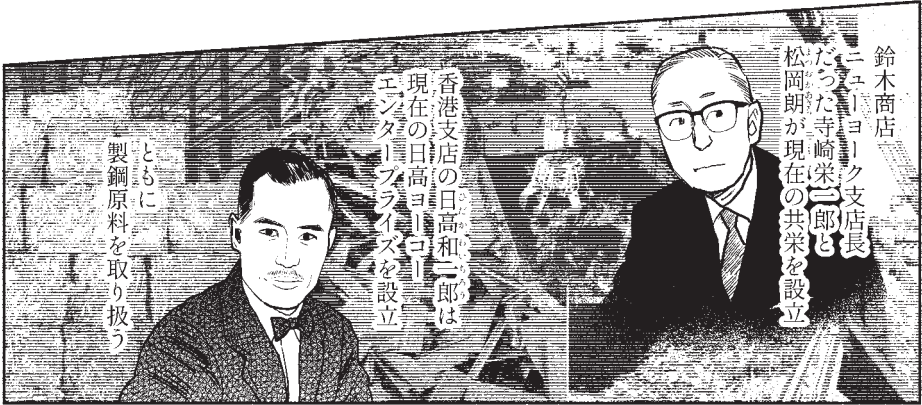


※ 金子直吉のこと。



鈴木商店破綻後
優良な
帝人、神戸製鋼所、
帝国麦酒
(現・サッポロビール)
などは鈴木商店時代の
債務を背負いながら
事業を継続
ただし一部の事業は
三井、三菱などに
譲渡された

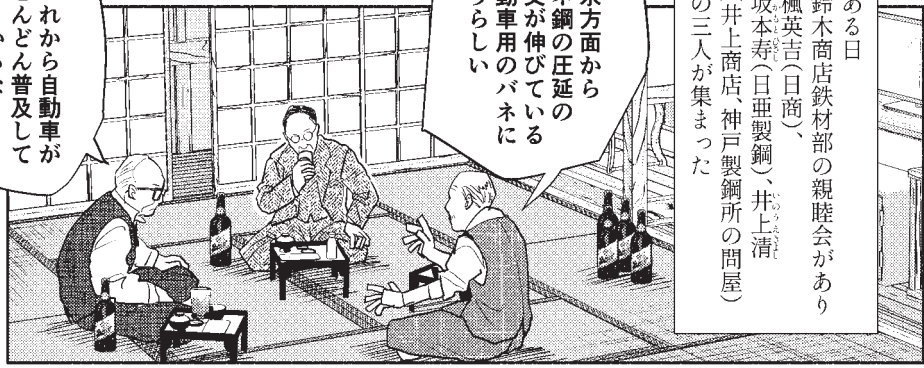
なかには
これを機に独立
するものもいた



ある日
鈴木商店鉄材部の親睦会があり
楓英吉(日商)、
坂本寿(日亜製鋼)、井上清
(井上商店、神戸製鋼所の間屋)
の三人が集まった

東京方面から
バネ鋼の庄延の
注文が伸びている
自動車用のバネに
使うらしい

これから自動車
が
どんどん普及して
いくからな



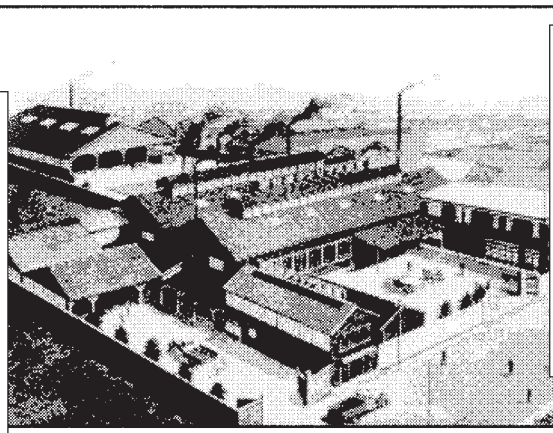
楓さん
事業にしま
せんか？

さすが
金子さんと同じ
土佐出身者
鈴木商店魂だな



こうして昭和一四(一九三九年)
芝浦スプリング製作所を買収し
日商のグループ会社として
日本発条を設立した

初代社長は楓英吉が務めた
日商はようやく貿易だけでなく
かつての鈴木商店のように
製造事業にも
進出を果たしたのだった



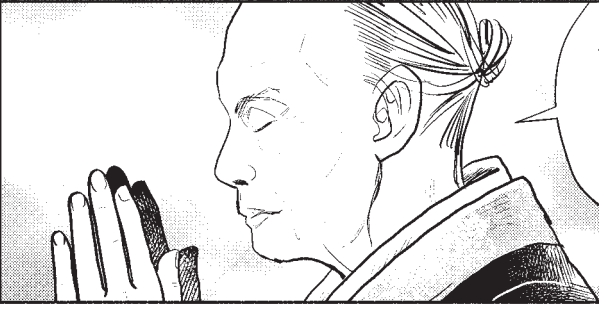
一方の金子直吉は
天然ソーダ輸入販売会社
として設立された太陽曹達
(後・太陽産業 現 太陽鋳工)
にて鈴木家とともに再起を
図ることになる

このままでは主家である
鈴木家に申し訳がたない
新たな事業も手がけたい



同寺は
鈴木商店破綻寸前に
積み立ててあった
鈴木よねの退職金を
寄進することで
再建された

鈴木商店は
破綻してしまつたが
主人の岩治郎が
亡くなった際に廃業
する予定が
直どんがここまで
連れてきてくれた
感謝の気持ち
しかない



昭和六(一九三三)年
太陽曹達の代表取締役には
高畑誠一が就任、
金子直吉は相談役となつた
鈴木家と太陽曹達は
旧鈴木の関連会社の
株式を順次買い戻し
日商、神戸製鋼所の
筆頭株主となる
昭和九(一九三四)年には
田宮嘉右衛門が
神戸製鋼所の社長に就任

かつての顔ぶれが
並ぶ機会も増えた



晩年に至っても
金子直吉の事業意欲は
衰えることがなかった

高畑 あゝ……
金が欲しい
ワシはもった
事業をやりたい
いんじゃない

有馬温泉 兆楽

サラワクで
発電事業や
マレー半島で
ボーキサイト
西オーストラリアで
鉄鉱石の開発……
よく調べられて
いますね
金子さんは……

今やられている
製鋼用の
モリブデンも
好調だとか

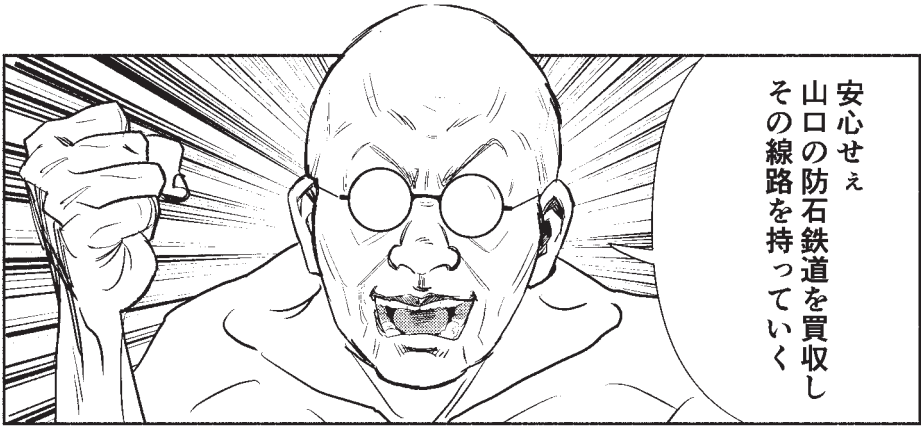
本当の狙いは
何だと思う？
分かるか田宮？
石炭液化事業だ!!

これから
航空機の時代になり
自動車の普及のために
液体燃料が必要だ
日本には石炭がある
モリブデンが液化の触媒
として必要なんだ

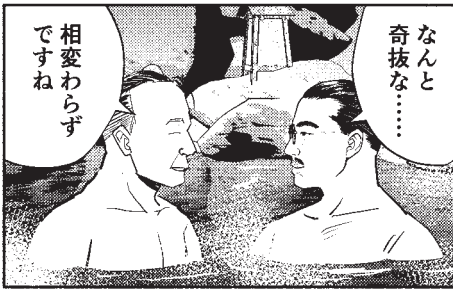
鈴木は
山口や筑豊で
石炭事業をやって
いましたね

うむ！ 今
鈴木時代に取得した
北海道羽幌炭鉱の
鉱区を買い戻し
辻湊ら
旧鈴木の技術者を
集めておる

石炭輸送のために
鉄道を敷く
必要がありますが
今は鉄不足ですよ

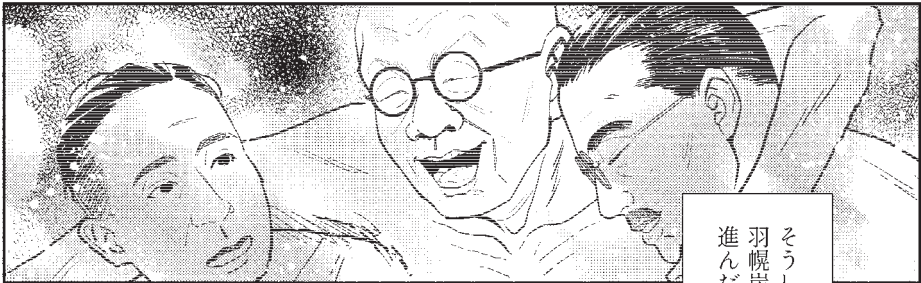
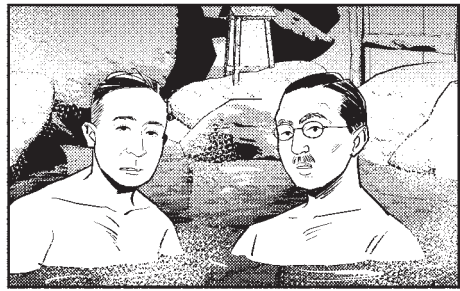


安心せえ
山口の防石鉄道を買収し
その線路を持っていく



なんと
奇抜な……

相変わらず
ですね



そうして
羽幌炭砒の開発は
進んだが

金子直吉は
新時代の到来を目前に
その生涯を閉じた



ときに
昭和一九（一九四四）年
七七年の
波乱の生涯であった

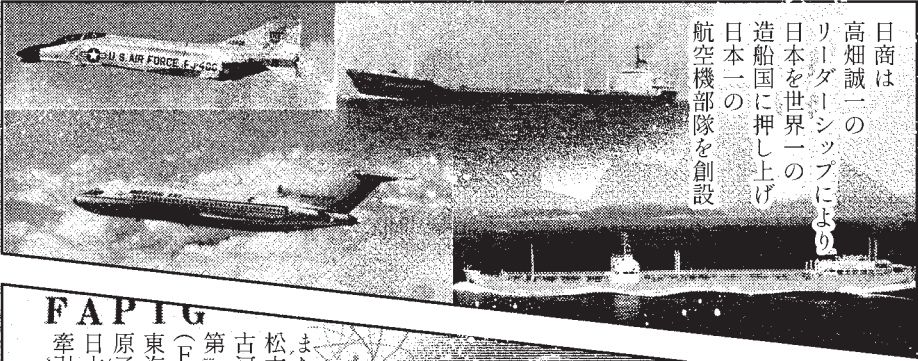


羽幌炭砒は戦後
年間一〇〇万トンを出炭し
高度経済成長に必要な
エネルギー源を供給した

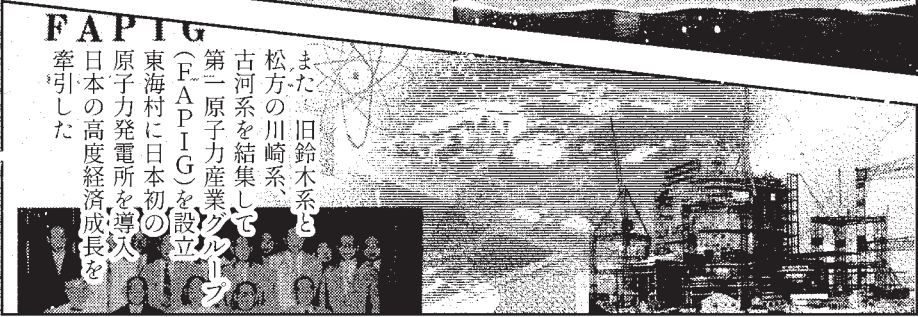
金子直吉の死の翌年
第二次世界大戦が終結

そして

新たな
世界秩序の
なかで
各社は
羽ばたいて
ゆく



日商は
高畑誠一の
リーダーシップにより
日本を世界一の
造船国に押し上げ
日本一の
航空機部隊を創設



また、旧鈴木系と
松方の川崎系、
古河系を結集して
第二原子力産業グループ
(FAPIG)を設立
東海村に日本初の
原子力発電所を導入
日本の高度経済成長を
牽引した



昭和二八（一九五三）年
長岡禅塾開塾
一五周年記念の催しが開かれ
岩井系企業間の相互の
連携・親睦をはかるため
岩井勝次郎の戒名
「最勝院大徹無居士にちなむ」
「最勝会」が発足した

現在の最勝会メンバーは
関西ペイント(株)

(株)タイセル

(株)トリア紡コーポレーション

(株)トクヤマ

日本橋梁(株)

日本発条(株)

富士フィルム(株)

双日(株)

最勝会は月に一度
双日本社にて定例会が開かれ
令和五年には四六三回を超え
いまでも続いている

最勝院大徹無居士

昭和四三（一九六八）年
日商と岩井は合併し
日商岩井が発足

岩井産業社長
岩井英夫

日商社長
西川政一

戦後の日本綿花は
紡績だけでなく
商品の多角化を進め
総合商社化を
果たしていく

創立九〇周年にあたる
昭和五七（一九八二）年
社名を日綿實業から
ニチメンに変更

Nichimen

そして
平成一五（二〇一三）年
ニチメンと日商岩井は
経営統合し
ニチメン・日商岩井
ホールディングスを設立

翌年の
平成一六（二〇一四）年
双日として発足する

双日の誕生である

日本は開国をきっかけに
産業革命が始まった

「産業を興して日本を
一流国の仲間入りさせる」

という使命感は
日本そのものを動かす
原動力となった。

第一次大戦期、

鈴木商店は年商で日本一に、
岩井商店も製造業を次々と興し、
日本綿花は日本最大産業の
紡績業に原料、製品販売で
大きく貢献した。

鈴木商店(岩井商店)日本綿花の
3社を合わせた事業規模は、
財閥を凌駕し、
日本の産業界に
大きな存在感を示した。



双日株式会社



第二次大戦後も、
戦後復興、高度経済成長、
オイルショックを経て、
日本は
JAPANA SNOIと
称される程、
世界の経済大国に
上りつめた。

双日の前身は、
それぞれの時代において
重要な役割を背負い受け継いだ
有形無形の資産を変革させ、
未来を創造してきた。

そのDNAは
現在の双日にも
受け継がれている。
事業と人材を創造し続ける
総合商社、
それが双日である。

そして
双日の源流となった
三社で活躍した先人の魂は
現在の双日にも受け継がれ

溢れる起業家精神と
発想実現力で
今日も新たな未来を
創造している



sojitz

Hassojitz

発想 × **sojitz**

年表 創業からの歩み

元号	西暦	鈴木商店・日商	岩井商店	日本綿花	主な出来事
嘉永6	1853				ペリー来航
文久2	1862		岩井文助、岩井文助商店（舶来雑貨商）設立		
明治7	1874	鈴木岩治郎、神戸にて「カネ辰・鈴木商店創業」（洋糖引取商）			
明治19	1886	金子直吉（20歳）、鈴木商店に入店			
明治25	1892			日本綿花設立、佐野常樹が、初代社長就任	
明治26	1893			日本郵船とインド綿輸送契約を締結（灘萬会議）、インド綿取扱い国内第一位	
明治27	1894	岩治郎急死、鈴木よねを助け、金子直吉らが経営にあたる		喜多又蔵、入社（17歳）	日清戦争勃発
明治28	1895	「小松組」を組織し、台湾使節団を派遣（鈴木商店台湾進出の第一歩）		田中市兵衛、社長就任	下関条約（台湾が日本の統治下に）
明治29	1896		岩井勝次郎、文助より独立し、岩井商店設立	米綿の直輸入開始（日本初）、ボンベイ事務所を開設	

元号	西暦	鈴木商店・日商	岩井商店	日本綿花	主な出来事
明治30	1897		横浜正金銀行副頭取の高橋是清と会見し、「トラスト・レシート」による輸入貨物引取交渉に成功		
明治33	1900	台湾産樟脳販売権を取得（後藤新平との出合い）、神戸に再生樟脳製造所設立	岩井勝次郎、パリ博覧会見物を兼ね欧米視察		
明治35	1902	神戸に薄荷製造所（現・鈴木薄荷）設立		喜多又藏、揚子江視察、中国綿の取扱国内第一位に	
明治36	1903	北九州進出、大里製糖所（現・関門製糖）設立		上海支店開設	
明治37	1904	本社移転（栄町通4丁目↓栄町通3丁目）	大阪北浜4丁目に本店新社屋完成	綿糸取扱開始、漢口支店開設、綿花荷造り工場併設	日露戦争勃発
明治38	1905	小林製鋼所を買収、神戸製鋼所と改称		上海に紡績及び繰り綿工場を設置	
明治39	1906	東京毛織（後・三菱レイヨン、現・三菱ケミカル）設立		漢口・漢陽に豆粕工場建設、ニューヨーク出張所開設、インド綿、大阪港に初輸入	
明治40	1907	大里製糖所を大日本製糖へ売却 東レザラー（現・帝人、ニチリン、北越東洋ファイバー）設立	白金莫大小工場の経営に乗り出す（現・トリア紡コーポレーション）	漢口で綿実搾油工場経営	
明治41	1908	鈴木・岩井・三菱の共同出資で日本セルロイド人造絹糸（現・ダイセル網干工場）設立			
明治42	1909	高畑誠一、永井幸太郎入社、日本商業（後・日商、現・双日）設立		大阪中之島に新社屋完成、ニューヨーク綿花取引所の会員権を日本人として初めて取得	

元号	西暦	鈴木商店・日商	岩井商店	日本綿花	主な出来事
明治43	1910	北港製糖設立、日沙商会設立 帝国帆船海上保険を系列化し、東洋海上保険（現・東京海上ホールディングス）に改称		田中市兵衛社長死去、志方勢七、社長就任	
明治44	1911	大里製粉所（後に日本製粉と合併、現・ニッポン）設立			
明治45、大正元	1912	高畑誠一、ロンドン支店に赴任、帝国麦酒（現・サッポロビール）設立	亜鉛鍍に経営参画、後に大阪鉄板製造に社名変更（後・日新製鋼、現・日本製鉄）		
大正2	1913	東亜煙草買収、大正生命保険設立	西宗茂二を日本セルロイド人造絹糸の支配人として派遣、岩井主導の再建へ	羊毛市場調査のため安井豊太郎を南米へ派遣、綿布輸出取引を開始	
大正3	1914	金子直吉一斉買い出動指示 大里酒精製造所（現・ニッカウキスキー門司工場）設立 大日本塩業（現・日塩）買収 日本輪業（現・ニチリン）、東レザールより分離独立			第一次世界大戦勃発
大正4	1915	金子直吉、「天下三分の宣誓書」を発す			
大正5	1916	播磨造船所（現・IHI）設立、鳥羽造船所を買収 帝国汽船設立、日本金属（現・彦島製錬）設立、沖見初炭鉱設立 帝国染料製造・日本火薬製造（現・日本化薬）設立 佐賀紡績設立	大阪繊維工業（現・ダイセル尼崎工場）設立 山口県徳山にて大阪鉄板徳山分工場の建設に着手 神戸御影に岩井本邸を建設 京都大学に岩井奨学金設立	喜多又蔵、副社長に就任	貿易収支、大幅な黒字

元号	西暦	鈴木商店・日商	岩井商店	日本綿花	主な出来事
大正 6	1917	貿易年商で総合商社第一位に 浪華倉庫(現・澁澤倉庫)設立 鳥羽造船所に電機試作工場 (後・神鋼電機、現・シンフォ ニアテクノロジ)を開設 東洋燐寸設立		喜多又蔵、社長就任、創立25 周年10割配当実施 アルレンチン羊毛輸入開始の ため大岡破挫魔を派遣 東アフリカへ進出、生糸取引 開始 漢口に日華製油(現・J・オ イルミルズグループ)設立	ロシア革命
大正 7	1918	米騒動、鈴木商店本店焼き打 ち事件 日米船鉄交換契約成立 帝国人造絹糸(現・帝人)設立 帝国石油(後・昭和シェル石 油、現・出光興産)買収 日本冶金(現・東邦金属)設立 鈴木商店系他の樟脳関連会社 が統合し、日本樟脳(現・日本 精化)発足	日本曹達工業(現・トクヤ マ)設立 関西ベイント設立	ビルマ綿を初輸入、ラングー ン、ブエノスアイレスに出張 所設立 喜多社長、パリ講和使節随員 として渡欧	米騒動 第一次世界大戦終結
大正 8	1919	太陽曹達(現・太陽鋳工)設立 国際汽船(現・商船三井)設立 信越電力(現・東京電力)設立 再製樟脳(現・日本テルベン 化学、日本香料薬品)設立 日本セルロイド人造絹糸、大阪 繊維工業他8社が大日本セル ロイド(現・ダイセル)に合流	反動不況を予期し、岩井勝次 郎訓示を発す 日本橋梁設立	喜多又蔵が発起人代表として 阪和電気鉄道免許申請(現・ JR阪和線) インドに綿花プレス工場、ビ ルマに繰り綿工場を設置	パリ講和会議
大正 9	1920	新日本火災海上(現・三井住 友海上火災保険)設立 大里製粉所・札幌製粉が日本 製粉(現・ニッポン)と合併、 鈴木商店は株主として支援	1932年迄、連続無配	綿糸布市場暴落を受け喜多社 長、総解合に尽力 ラングーンで精米工場買収 (日本のビルマ投資の先駆け) 鈴格式織機設立(初代社長・ 喜多又蔵現・エンシユウ)	国際連盟発足

元号	西暦	鈴木商店・日商	岩井商店	日本綿花	主な出来事
大正10	1921	国際汽船、川崎汽船、川崎造船所3社によりKライン発足 米星煙草（後・双日ジーエムシー）設立 スタンダード油脂（現・日油）設立			
大正11	1922	豊年製油（現・J-オイルミルズ）、鈴木商店より分離独立 クロード式窒素工業（現・下関三井化学）設立	中央毛糸紡績（現・トリア紡コーポレーション）設立	旭絹織設立（社長・喜多又蔵、専務・野口遵、現・旭化成） 喜多又蔵、綿花定期取引の上場を大阪三品取引所に提唱（昭和2年1月上場実現）	ワシントン海軍軍縮条約
大正12	1923	合名会社鈴木商店を鈴木合名会社に改め、貿易部門を分離し、株式会社鈴木商店を創設		関東大震災で横浜支店に犠牲者、エジプト・アレクサンドリアに出張所開設（商社初）	関東大震災
大正13	1924	山陽電気軌道（現・サンデン交通）設立		漢口に泰安紡績設立	
大正14	1925	日本エヤーブレーキ（現・ナプテスコ）設立 長府土地（現・サンデン交通）設立		辻紡績（後・ニチメン繊維工業）の経営に参加	
大正15	1926	日本製粉、日清製粉の合併が不調に終わり、資金難に陥る（台湾銀行、両社に緊急融資を行う）		タンガニーカ、ウガンダにて綿綿工場買収（日本人初の東アフリカ投資） 阪和電気鉄道設立（喜多又蔵発起人）	
昭和元・2	1927	台湾銀行、鈴木商店との取引断絶、鈴木商店破綻			昭和金融恐慌

昭和13	昭和12	昭和10	昭和9	昭和8	昭和7	昭和5	昭和3	元号
1938	1937	1935	1934	1933	1932	1930	1928	西暦
鈴木よね死去(享年85歳)			鈴木家が日商の増資を引き受け、後・太陽曹達(現・太陽鉱工)取締役が日商の筆頭株主に				高畑誠一、永井幸太郎ら鈴木商店社員が日商(後・日商岩井、現・双日)設立 金子直吉は太陽曹達にて再起を図る	日商
	徳山市に「岩井勝次郎翁頌徳碑」建立	岩井雄二郎、社長就任 長岡禅塾地鎮祭、岩井勝次郎死去(享年73歳)	日本曹達工業(現・トクヤマ)の危機、岩瀬徳三郎らが大量退社 シヨン)	富士写真フィルムを設立(大日本セルロイドより分離) 中央毛糸紡績四日市工場新設(現・トリア紡コーポレーション)		経営悪化を受け、京都の料亭「郭公」にて岩井勝次郎、山口銀行・町田忠治と会談		岩井商店
				日本の綿布輸出は英国を抜き世界第一位に	喜多社長死去(享年54歳)、南郷三郎、社長就任	大欠損金、大減資を断行	タンガニールカで綿花の試験栽培を実施	日本綿花
	日中戦争勃発			三和銀行誕生(三十四、山口、鴻池銀行が合併)				主な出来事

第二次世界大戦後	昭和20	昭和19	昭和18	昭和16	昭和14	元号
	1945	1944	1943	1941	1939	西暦
2003年、ニチメンと日商岩井が経営統合し、2004年に双日が誕生	高畑誠一、会長に、永井幸太郎、社長に就任	金子直吉死去（享年77歳）	日商から日商産業に社名変更		日本発条（日商、井上商店他が出資）設立 太陽曹達（現・太陽鋳工）が羽幌炭砒の開発を開始（日商も出資）	日商
	1953年、最勝会結成		岩井商店から岩井産業に社名変更	中央毛糸と錦華毛糸が合併し、東亜紡織（現・トーア紡コーポレーション）設立	長岡禅塾開塾	岩井商店
	1968年 日商と岩井産業が合併し日商岩井誕生		日本綿花から日綿實業に社名変更 貿易統制会にて三井、三菱に次ぎ三位の取扱い			日本綿花
	1982年、日綿實業からニチメンへ社名変更	インパール作戦（ビルマ）にて日綿社員が多数動員され、社員45人が犠牲に		太平洋戦争勃発		主な出来事

第1巻から第6巻まで 双日WEBサイトで公開しています



第1巻 創業



第2巻 黎明



第3巻 躍動



第4巻 衝天



第5巻 暗雲



第6巻 新路

本マンガは双日Webサイトに掲載しています
https://www.sojitz.com/special_site/pioneer/



双日は現在、全世界に400以上のグループ会社を有し、自動車・航空産業・交通プロジェクト、インフラ・ヘルスケア・金属・資源・リサイクル、化学、生活産業・アグリビジネス、リテール・コンシューマーサービスの7本部体制で、広範・多岐にわたる製品の製造・販売や輸出入、サービスの提供、各種事業投資などをグローバルに展開しています。



Hassojitz

総合商社 双日 未来を創造した先駆者たち
～第6巻 新路～

2024年3月 第1刷発行

発行 双日株式会社

〒100-8691

東京都千代田区内幸町 2-1-1

画 すずきんかりお

関連サイト https://www.sojitz.com/special_site/pioneer/

無断複写・複製・転載を禁じます

本マンガ制作にあたっては、本巻に登場する多くの取引先企業、鈴木商店記念館、大阪企業家ミュージアムの皆様にご協力いただきました。

厚くお礼申し上げます。



New way, New value